

CP5 / CP50

STAGE PIANO

リファレンスマニュアル

目次

取扱説明書の使い方	2
CP5/CP50 のしくみ	3
CP5/CP50 の全体構成	3
音源部	4
ソング設定部	10
コントローラー部	11
リファレンス	12
LEFT/RIGHT パート	12
ソング設定	35
TRACK パート	39
MIC INPUT パート (CP5 のみ)	40
全パートに共通の設定	42
全パフォーマンスに共通の設定	43
資料	54
MIDI について	54

このマニュアルは、改良のため予告なく変更することがあります。
最新のマニュアルは下記 URL からダウンロードできます。

<http://www.yamaha.co.jp/manual/>

取扱説明書の使い方

CP5/CP50 には、取扱説明書、リファレンスマニュアル、データリストの3つのマニュアルが付属しています。取扱説明書は冊子として製品と同梱されており、リファレンスマニュアルとデータリストはPDFファイルとして同梱CD-ROMに収録されています。



取扱説明書 (冊子)

CP5/CP50を使用するまでの準備と、基本的な操作方法について説明しています。



リファレンスマニュアル (この PDF ファイル)


CP5/CP50 のしくみおよびパラメーターについて説明しています。



データリスト (別 PDF ファイル)

CP5/CP50 に搭載されているパフォーマンスのリストや、モジュレーションエフェクトブロック、パワーアンプ/コンプレッサーブロック (CP5のみ) のタイプおよびパラメーターのリスト、またMIDIに関する資料などを掲載しています。

リファレンスマニュアルの使い方について

- 「CP5/CP50のしくみ」の最初のページにある、全体構成図上の  (矢印) ボタンをクリックすると、該当ブロックの説明ページへ移動できます。
- 「リファレンス」の右端にある付箋ボタンは、パフォーマンスの各パートやパネル上のボタンから、該当するパラメーター説明を検索できます。CP5/CP50 の内部構成や、各構成要素とパネル上のボタンとの関係を把握するリストとしても活用できます。また、右端の上下部分にある「CP5/CP50 のしくみ」や「資料」の付箋ボタンをクリックすると、該当する章のページに移動できます。
- 目次や本文中に書かれているページ番号をクリックすると、該当ページへ移動できます。
- ファイルの左側に表示されている「しおり」上で見たい項目をクリックすると、該当ページへ移動できます。(しおりが表示されていない場合は、左上の「しおり」タブをクリックするとしおりが表示されます。)
- Adobe Reader の「編集」メニューから「検索」または「簡易検索」を選び、調べたいキーワードを入力することで、キーワードによる全文検索ができます。

NOTE 最新の Adobe Reader は、下記 URL からダウンロードできます。

<http://www.adobe.com/jp/products/reader/>

NOTE Adobe Reader のバージョンによって、メニューの名称や表示位置などが異なる場合があります。

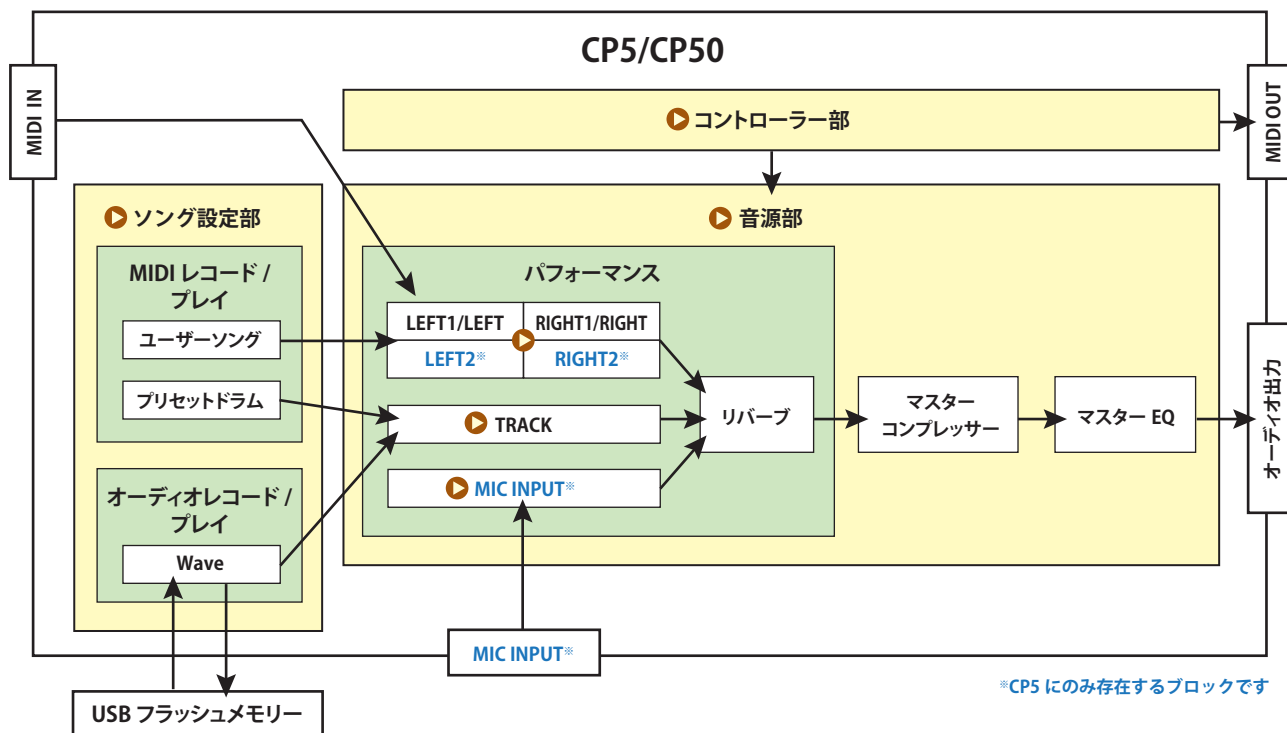
お知らせ

- ・この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- ・本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

CP5/CP50 のしくみ

CP5/CP50の全体構成

CP5/CP50は、音源部、ソング設定部、コントローラー部の3つのブロックから構成されています。

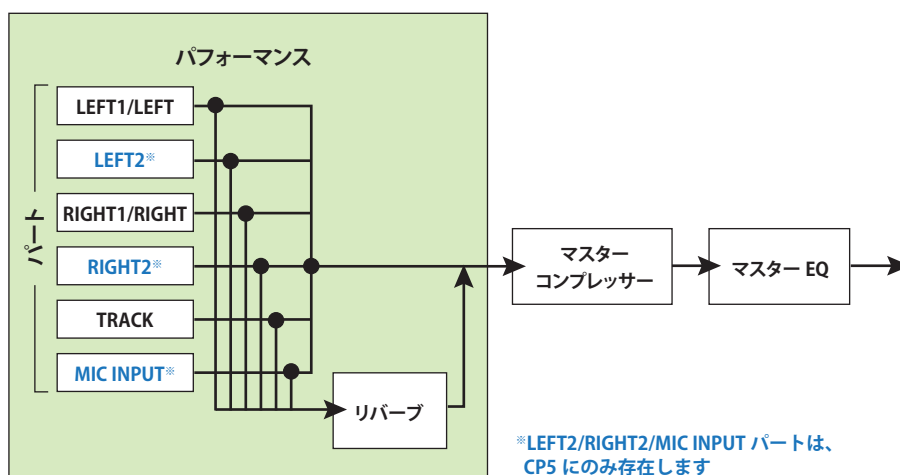


*CP5にのみ存在するブロックです

▶ クリックすると該当ページにジャンプします

音源部

音源部は、鍵盤の演奏やシーケンサー/各種コントローラーによる演奏情報によって、実際に発音するブロックです。CP5/CP50の音源は、パフォーマンスとマスターコンプレッサーブロック、マスターEQブロックによって構成されています。パフォーマンスとは、複数のボイスを重ねて鳴らすための音色セットのことです。マスターコンプレッサーブロックとマスターEQブロックは、最終的なダイナミクスの調整および音質補正を設定するブロックです。全パフォーマンスに共通した設定になり、CP5/CP50を鳴らす環境に応じて調整します。全体の信号の流れは、次の図のようになっています。



パフォーマンスは複数のパートとリバーブブロックで構成されています。パフォーマンスを構成しているパートは、以下のとおり、CP5の場合6パート、CP50の場合3パートあります。パートによって、扱う音の種類が異なります。各パートについて詳しくは、5ページをご覧ください。

■ CP5 のパート構成

- LEFT/RIGHTパート (LEFT1パート、LEFT2パート、RIGHT1パート、RIGHT2パート)
- TRACKパート
- MIC INPUTパート

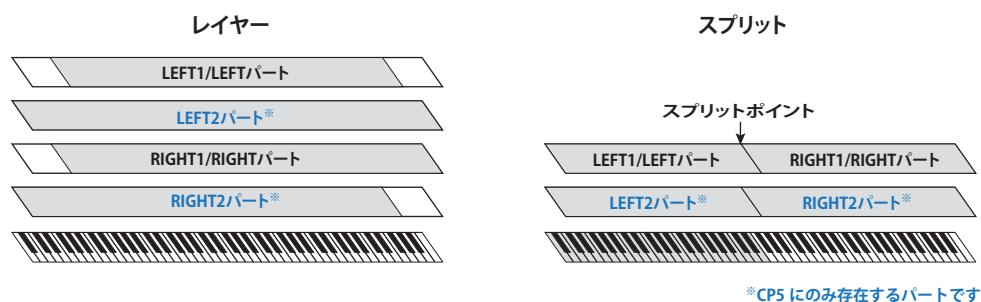
■ CP50 のパート構成

- LEFT/RIGHTパート (LEFTパート、RIGHTパート)
- TRACKパート

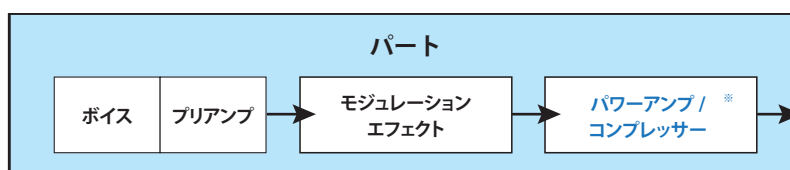
設定された各パートのサウンドに共通のリバーブエフェクトを設定することで、パフォーマンスの音が作られます。最後に、全パフォーマンスに共通した設定となるマスターコンプレッサーブロックとマスターEQブロックを設定して、CP5/CP50の音を、鳴らす環境に最適な音に調整します。これで、CP5/CP50の音が完成します。

パフォーマンスの LEFT/RIGHT パートについて

パフォーマンスの LEFT/RIGHT パートは、鍵盤演奏や MIDI 入力によって内蔵音源を使って発音するパートです。CP5 の場合は LEFT1 パート、LEFT2 パート、RIGHT1 パート、RIGHT2 パートの 4 パート、CP50 の場合は LEFT パートと RIGHT パートの 2 パートを、レイヤーしたり (重ねたり)、左手鍵域と右手鍵域とにスプリットしたり (分けたり) できます。レイヤーの場合は、各パートのノートリミット設定 (29 ページ) に従った発音領域で、各パートが重ねられます。スプリットの場合は、スプリットポイントの設定 (31 ページ) に従って、LEFT のパートが鍵盤低音部に、RIGHT のパートが鍵盤高音部に分けられます。レイヤー/スプリットの設定は、コモン設定画面の「Split」パラメーター (31 ページ) で行ないます。



各パートは、CP5 の場合、ボイスブロック、プリアンプブロック、モジュレーションエフェクトブロック、パワーアンプ/コンプレッサーブロックの 4 つのブロック、CP50 の場合、ボイスブロック、プリアンプブロック、モジュレーションエフェクトブロックの 3 つのブロックから構成されています。



各ブロックには、アコースティックピアノから往年の名機と言われるエレクトリックピアノまでを忠実に再現したピアノ音色や、ライブステージやレコーディングで実際に併せて使われるエフェクターやアンプなども複数用意されています。これらを自由に組み合わせることで、往年の定番セッティングの再現はもちろん、実際の機器では不可能なセッティングまで実現でき、オリジナルのピアノサウンドを作り出せます (ピアノのカスタマイズ機能)。また CP5/CP50 には、ピアノ音色以外にストリングスやギターなどの音色も搭載しており、ピアノ音色と組み合わせるとオリジナルのアンサンブルサウンドを作りだせます。

さらに、作成した複数パートのサウンドに、共通のリバーブブロックのエフェクトを設定することで、パフォーマンスを作り出せます。またパフォーマンスには、パフォーマンスの名称や発音方法の設定、コントローラーの設定などを行なうコモンパラメーターも用意されています。このコモンパラメーターを調整することで、1 つのパフォーマンスが完成します。CP5/CP50 には、これらの組み合わせをあらかじめ最適な音になるように設定したプリセットパフォーマンスが複数搭載されています。また全パフォーマンスに共通した設定となるマスターコンプレッサーブロックとマスターEQ ブロックを設定することで、CP5/CP50 の音を、鳴らす環境に最適な音に調整します。これで、CP5/CP50 の音が完成します。

LEFT/RIGHT パートを構成する各ブロックおよびコモンパラメーターの役割

CP5/CP50の音を作り上げる各ブロックとコモンパラメーターの役割は次のとおりです。

■ボイスブロック

ボイスを設定するブロックです。ボイスとは、電子楽器の音源に内蔵されている楽器音色のことです。CP5/CP50のボイスには、アコースティックピアノから往年の名機といわれるエレクトリックピアノまでのピアノの原音を、それぞれ最適な発音システムを用いて忠実に再現した音色が搭載されています。さらに、ピアノ音色以外にも、ストリングスやギター、ベースなどのさまざまな楽器音色がカテゴリ(楽器の種類)ごとに搭載されています。カテゴリおよびボイスについては、データリスト(別PDFファイル)をご参照ください。また、ピアノ音色(PIANO/E.PIANOカテゴリ)の解説については、リファレンスの「ボイスブロック」(12ページ)をご参照ください。

■プリアンプブロック

プリアンプをはじめとしたピアノ音色固有のパラメーターを設定するブロックです。ボイスをピアノ音色(PIANO/E.PIANOカテゴリ)に設定した場合のみ、このブロックが有効になります。ステージなどで実際にピアノと合わせて使われていたプリアンプのほか、ピアノ自体の音質を調整するためのさまざまなパラメーターが忠実に再現されています。ボイスブロックでPIANO/E.PIANOカテゴリのボイスを選択すると、各ボイスに最適なパラメーターがこのブロックに用意されます。プリアンプブロックのパラメーターについて詳しくは、リファレンスの「プリアンプブロック」(14ページ)をご参照ください。

■モジュレーションエフェクトブロック

ステージやレコーディングでのピアノのサウンドメイキングに欠かせないモジュレーション系のエフェクトタイプが複数搭載されています。このブロックは、各パートのボイスブロック/プリアンプブロックの次に通過するブロックとして用意されており、モジュレーション系エフェクトの効果をボイスに付加します。また、ボイスブロックでボイスをピアノ音色以外に設定している場合は、モジュレーションエフェクトブロックはインサクションエフェクトとして機能します。各パートでエフェクトタイプを選択し、そのパラメーターを調整します。各タイプとパラメーターについて詳しくは、リファレンスの「モジュレーションエフェクトブロック」(16ページ)をご参照ください。

■パワーアンプ/コンプレッサーブロック(CP5のみ)

CP5では、忠実に再現されたパワーアンプおよびコンプレッサーが複数搭載されており、パワーアンプかコンプレッサーのどちらかを設定できます。このブロックは各パートのモジュレーションエフェクトブロックの次に通過するブロックとして用意されており、音質を調整します。また、ボイスブロックでボイスをピアノ音色以外に設定している場合は、パワーアンプ/コンプレッサーブロックはインサクションエフェクトとして機能します。各パートでパワーアンプ/コンプレッサーのタイプを選択し、そのパラメーターを調整します。各タイプとパラメーターについて詳しくは、リファレンスの「パワーアンプ/コンプレッサーブロック」(25ページ)をご参照ください。

■コモンパラメーター

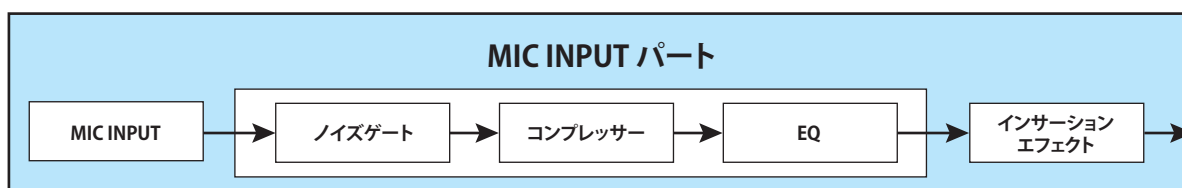
パフォーマンスの名称の設定や、LEFT/RIGHTパートの発音方法やコントローラーの設定を行いません。外部MIDI機器と接続して、マスターキーボードとして機能させたい場合も、ここで設定します。各パラメーターについて詳しくは、リファレンスの「コモン」(31ページ)をご参照ください。

パフォーマンスの TRACK パートについて

CP5/CP50では、1つのパフォーマンスに対して1つのバックングソングを設定でき、鍵盤演奏をしながらバックングソングを再生できます。バックングソングとして設定できるデータは、プリセットドラムパターン、ユーザーソング、Wave ファイルの3種類になります。パフォーマンスのTRACKパートでは、バックングソングとして設定したプリセットドラムパターンまたはUSBフラッシュメモリー上のWaveファイルに対して、ボリュームやパン、リバーブセンドの設定をします。各パラメーターについて詳しくは、リファレンスの「TRACKパート」(39ページ)をご参照ください。

パフォーマンスの MIC INPUT パートについて (CP5 のみ)

CP5 では、MIC INPUT 端子にマイクを接続して、歌いながらパフォーマンスの演奏を楽しめます。このパフォーマンスのMIC INPUT パートでは、MIC INPUT (マイク入力) 端子からのオーディオ信号に対して、ボリュームやパン、効果させるエフェクトなどを設定します。MIC INPUT 端子からの信号には、ノイズゲートやコンプレッサー、EQ、インサーションエフェクトを効果させることができます。詳しくは、リファレンスの「MIC INPUTパート」(40ページ)をご参照ください。



リバーブブロックについて

CP5/CP50には、ヤマハがプロオーディオ機器用に開発した、リバーブアルゴリズムを用いたリバーブエフェクトが複数搭載されています。このブロックは、パフォーマンスの全パートの音に対して共通した残響効果を付加します。1つのパフォーマンスにおいて、1つのリバーブタイプを設定し、そのパラメーターを調整します。各タイプとパラメーターについて詳しくは、リファレンスの「リバーブ」(42ページ)をご参照ください。

パフォーマンスのメモリー構成

CP5/CP50には、パフォーマンスを記憶させるためのメモリーが用意されています。メモリーには、大きく分けてプリセットパフォーマンスメモリー、ユーザーパフォーマンスメモリー、エクスターナルパフォーマンスメモリーの3種類があります。各メモリーの役割は、次のように異なります。

プリセットパフォーマンスメモリー ([PRE] ボタン)

あらかじめ本体に内蔵されたパフォーマンスが記憶されています。プリセットパフォーマンスメモリーには、PRE 1 (プリセット1)バンク、PRE 2 (プリセット2)バンク、PRE 3 (プリセット3)バンクが用意されています。各バンクは、[PRE] ボタンを繰り返し押しすることで切り替えできます。各バンクには、A、B、C、Dの4つのグループがあり、各グループには10個のパフォーマンスが記憶されています。[A]/[B]/[C]/[D] ボタンを押して、ナンバー[1]~[10] ボタンを押すことで、選択中のバンクに記憶されているパフォーマンスを選択できます。またプリセットパフォーマンスメモリーでは、新たにパフォーマンスの保存はできません。

NOTE [EXIT] ボタンを押しながら [PRE] ボタンを押すと、必ずPRE1バンクのAグループのナンバー1のボイスが選択されます。

NOTE プリセットパフォーマンスの一覧は、別PDFファイルのデータリストをご参照ください。

ユーザーパフォーマンスメモリー ([USER] ボタン)

オリジナルのパフォーマンスを保存(ストア)しておくメモリーです。ユーザーパフォーマンスメモリーには、USR 1 (ユーザー1)バンク、USR 2 (ユーザー2)バンク、USR 3 (ユーザー3)バンクが用意されています。各バンクは、[USER] ボタンを繰り返し押しすることで切り替えできます。各バンクには、A、B、C、Dの4つのグループがあり、各グループには10個のパフォーマンスが記憶されています。[A]/[B]/[C]/[D] ボタンを押して、ナンバー[1]~[10] ボタンを押すことで、選択中のバンクに記憶されているパフォーマンスを選択できます。また初期状態では、プリセットと同じパフォーマンスが記憶されています。

注記

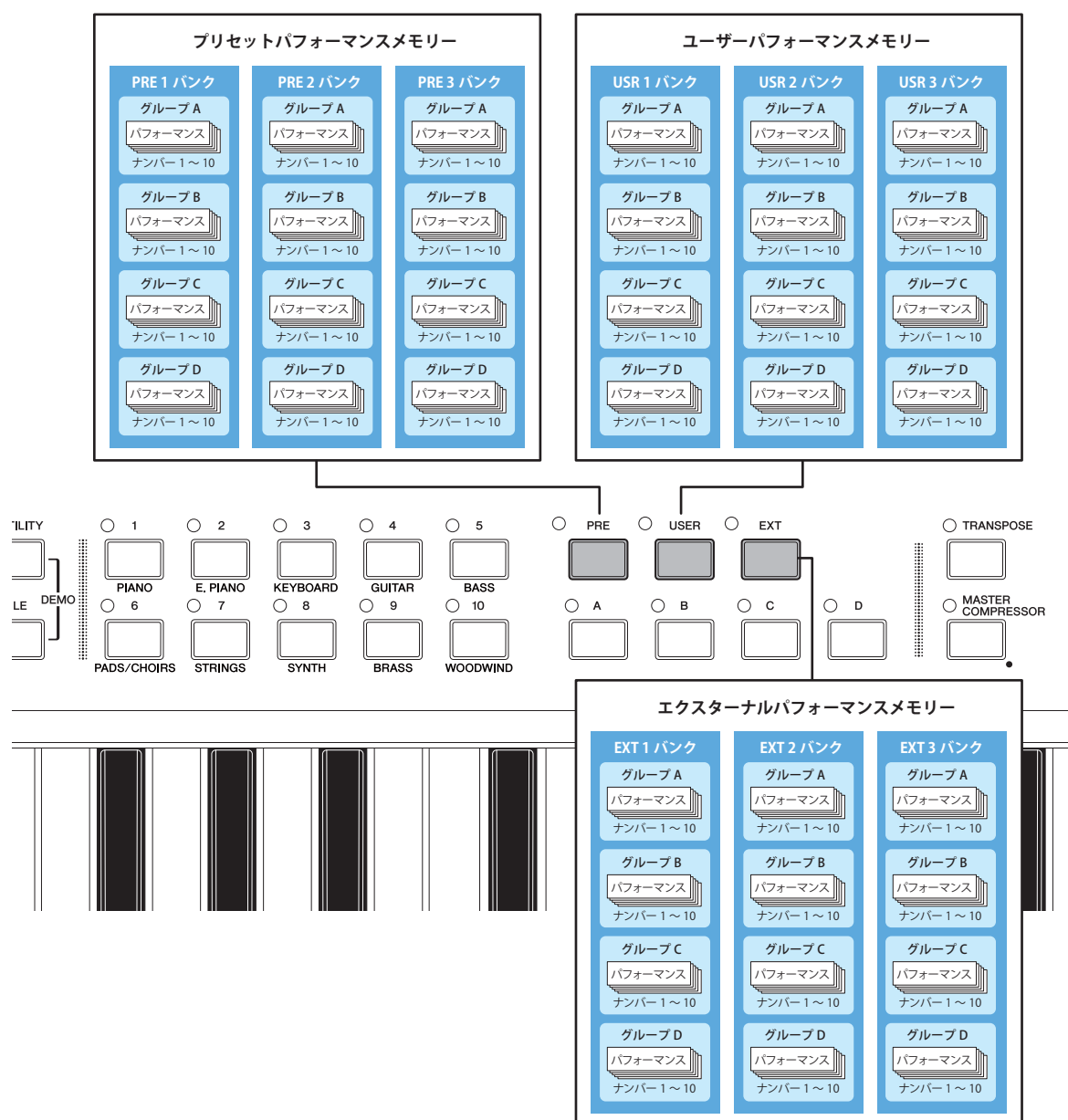
ユーザーバンクのパフォーマンスは、上書きされると消えてしまいます。オリジナルのパフォーマンスを保存する場合は、大切なパフォーマンスに上書き保存しないようにご注意ください。

NOTE [EXIT] ボタンを押しながら [USER] ボタンを押すと、必ずUSR1バンクのAグループのナンバー1のボイスが選択されます。

エクスターナルパフォーマンスメモリー ([EXT] ボタン)

本体に接続した USB フラッシュメモリー上のメモリーです。オリジナルのパフォーマンスを保存 (セーブ) できます。エクスターナルパフォーマンスメモリーには、EXT 1 (エクスターナル1) バンク、EXT 2 (エクスターナル2) バンク、EXT 3 (エクスターナル3) バンクが用意されています。各バンクは、[EXT] ボタンを繰り返し押すことで切り替えできます。各バンクには、A、B、C、Dの4つのグループがあり、各グループには10個のパフォーマンスが記憶されています。[A]/[B]/[C]/[D] ボタンを押して、ナンバー[1] ~ [10] ボタンを押すことで、選択中のバンクに記憶されているパフォーマンスを選択できます。また、USB フラッシュメモリーに保存したエクスターナルパフォーマンスデータを使う場合は、USB フラッシュメモリーを本体に接続して、エクスターナルパフォーマンスメモリーごと本体の専用メモリー (DRAM) にロードします。

NOTE [EXIT] ボタンを押しながら [EXT] ボタンを押すと、必ずEXT1バンクのAグループのナンバー1のボイスが選択されます。



HINT**エクスターナルパフォーマンスメモリーを使う場合について**

パフォーマンスデータをエクスターナルパフォーマンスメモリーに保存したり、USBフラッシュメモリー上のエクスターナルパフォーマンスデータを本体で使ったりする場合には、USBフラッシュメモリーを本体に接続する必要があります。このとき、接続するUSBフラッシュメモリーの状態によって、接続時の本体の動作が異なります。ここでは、エクスターナルパフォーマンスメモリーを上手に使っていただくために、USBフラッシュメモリーを本体に接続したときの動作について説明します。

●ルートディレクトリーにエクスターナルパフォーマンスメモリーが存在しないUSBフラッシュメモリー

本体に接続したUSBフラッシュメモリーには、接続直後に自動的にエクスターナルパフォーマンスメモリー (EXTBANK.C5EファイルまたはEXTBANK.C6Eファイル) がルートディレクトリーに作成されます。

```
<<  Making external  >>
<<      memory...    >>
```

●ルートディレクトリーにエクスターナルパフォーマンスメモリーが存在するUSBフラッシュメモリー

本体にUSBフラッシュメモリーを接続するのが、電源起動後の1回目か2回目以降かで、接続したときの動きが以下のとおり異なります。

< 電源起動後、1回目の接続 >

自動的にUSBフラッシュメモリー上のデータを本体の専用メモリー (DRAM)上にエクスターナルパフォーマンスデータとしてロードします。

```
<<      Loading...   >>
<< [EXIT] to cancel. >>
```

NOTE 電源起動後に別のUSBフラッシュメモリーを本体に接続したことがある場合は、2回目以降の接続になります。

注記

USBフラッシュメモリー上にあるエクスターナルメモリーを本体にロードすると、本体のDRAM上のエクスターナルパフォーマンスメモリーの全データやエディットバッファ上のデータが上書きされて消えてしまいます。USBフラッシュメモリーを接続する場合は、あらかじめDRAM上のエクスターナルパフォーマンスメモリーまたはエディットバッファ上に大切なデータがないか確認してください。

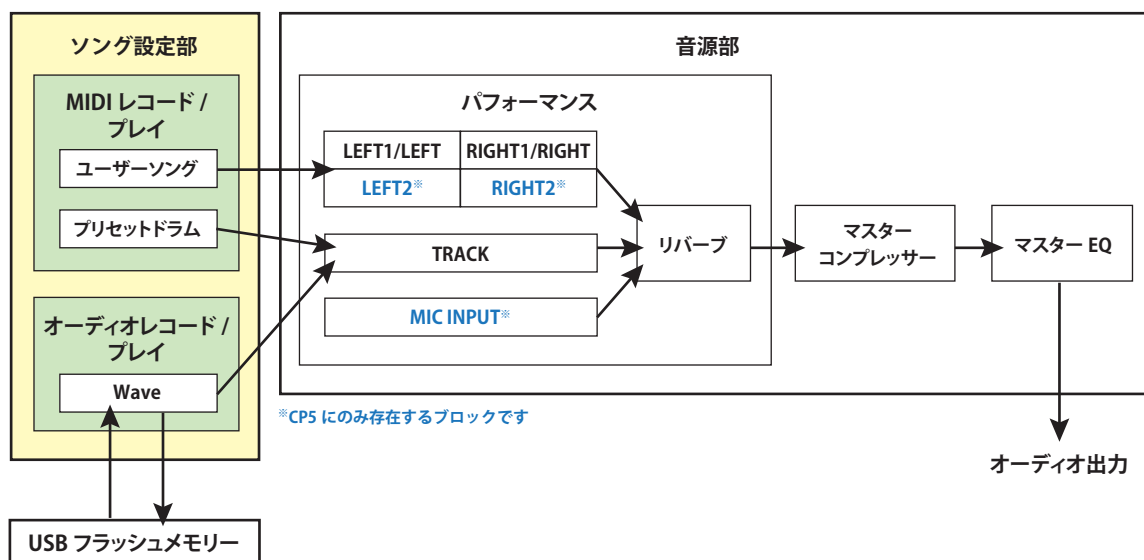
< 電源起動後、2回目以降の接続 >

USBフラッシュメモリー上のデータを本体にロードするかどうか、確認する画面が表示されます。本体のエクスターナルパフォーマンスメモリー上で、消去したくない編集中のパフォーマンスデータがある場合は、ノブ3 (「NO [PUSH]」) を押して、ロードするのをやめましょう。

```
<<  Load?(EXT perf)  >>
<<YES[PUSH]  NO[PUSH]>>
```

ソング設定部

ソング設定部は、パフォーマンスのバックアップソングとして使用する MIDI シーケンスデータとオーディオデータの録音（レコード）および再生（プレイ）を行なうブロックです。MIDI データとしては、本体内蔵のプリセットドラムパターンの再生と、ユーザーソングの録音および再生ができます。オーディオデータとしては、USB フラッシュメモリー上に Wave ファイルとして録音、および USB フラッシュメモリー上の Wave ファイルの再生ができます。



MIDI/ オーディオデータの録音（レコード）について

ユーザーソングおよび Wave ファイルの録音は、レコード画面（37 ページ）から実行できます。ユーザーソングの場合は、音源部のパフォーマンスの LEFT/RIGHT パートにより設定された音を使って、鍵盤演奏を MIDI データとして本体に録音します。Wave ファイルの場合は、鍵盤演奏に加え、バックアップソングとして設定されているプリセットドラムパターンまたはユーザーソングの再生音もオーディオデータとして USB フラッシュメモリーに直接保存されます。プリセットドラムパターンを MIDI データとして本体に録音することや、録音した MIDI データをプリセットドラムパターンとして保存することはできません。

MIDI/ オーディオデータの再生（プレイ）について

1つのパフォーマンスのバックアップソングとして再生できるのは、プリセットドラムパターン、ユーザーソング、Wave ファイルのうちいずれか1つになります。この設定は、ソング設定画面（35 ページ）で行ないます。バックアップソングとして設定したデータが、プリセットドラムパターンかユーザーソングか Wave ファイルかによって、その信号を扱うパフォーマンスのパートが異なります。プリセットドラムパターンと Wave ファイルの場合は、音源部のパフォーマンスの中にある TRACK パート（7 ページ）でその信号が扱われ、ボリュームやパン、リバーブセンドの設定をします。MIDI シーケンスデータであるプリセットドラムパターンは、パフォーマンスの LEFT/RIGHT パートで設定されている音色とは異なる内蔵ドラムキット音色を使うため、LEFT/RIGHT パートの設定に関わらず、ソング設定画面で設定したドラムキット音が鳴ります。それに対してユーザーソングの場合は、LEFT/RIGHT パート（5 ページ）でその信号が扱われ、LEFT/RIGHT パートで設定されている音色やエフェクトなどがすべてソングデータに反映されます。ユーザーソングは、LEFT/RIGHT パートの音で録音した MIDI データになるため、録音したパフォーマンスにおけるバックアップソングとして機能します。

コントローラー部

演奏を行なうキーボード、ピッチベンドホイール、ノブ、フットペダルなどの各種コントローラーが用意されています。キーボードは実際に音を出す装置ではなく、弾いた音程や強さなどの演奏情報を音源部に送信するための装置です。また、これと同様に各種コントローラーも、コントローラーを動かしたときの変化の情報を送信するための装置です。キーボードやコントローラーによる情報(MIDI 情報)は、MIDI OUT 端子や USB TO HOST 端子を通じて外部 MIDI 機器やコンピューターへ出力することができます。ただし、ノブ操作による情報は外部に出力されません。

リファレンス

ここでは、CP5/CP50で設定できるパラメーターについて説明します。

LEFT/RIGHT パート

ここでは、LEFT/RIGHT/パート (CP5の場合はLEET1/LEFT2/RIGHT1/RIGHT2パート、CP50の場合はLEFT/RIGHTパート) において設定できるパラメーターをブロック別に説明します。

ボイスブロック

このブロックでは、選択中のパートのボイスを選択します。

ボイスについて

エディット手順 [VOICE] ボタンを押す→ノブ 1/ノブ 2 を回す、またはナンバー[1]～[10] ボタンを押す

CP5/CP50 のボイスは、カテゴリーごとに分類されています。カテゴリーは、ボイスをピアノ、ギターといった楽器の種類や音のキャラクター別に分けたものです。ここでは、CP5/CP50 に搭載されているボイスのうち、PIANO(ピアノ)とE.PIANO(エレクトリックピアノ)のカテゴリーに搭載されているボイスについて紹介します。すべてのボイスについて詳しくは、データリスト(別PDFファイル)のボイスリストをご参照ください。

ボイス名	説明
PIANO カテゴリー	
CF Grand*	素直な音で、ジャンルを問わず応用範囲の広いピアノ音色です。ダイナミックレンジが広く表現力豊かな演奏が可能です。
S6 Grand* (CP5のみ)	CF音色に比べるとコンパクトで、木質感のあるピアノ音色です。温かさとパワーの両方を兼ね備えているので、いろいろなタイプの曲に使えます。
E.PIANO カテゴリー	
CP80*	典型的なCP80の音色です。トーンコントロールで高域をブーストすると、80年代風のサウンドになります。
CP88*	時代を感じさせるCP80の音色です。中域の音にCP特有の特徴があります。
71Rd I (CP5のみ)	Rd音色の中では一番古いタイプのピアノ音色です。フェルトハンマーによる柔らかいアタックと速い減衰が特徴で、コロコロした音です。
73Rd I (CP5のみ)	ハンマートップがゴムになり、71Rd Iよりはやや明るく、減衰も遅くて音が延びるようになります。基本的には暗めで太い音です。
75Rd I	タインやピックアップなどの音を作り出す各部品が高性能化され、明るく、サステインタイムが長い音色です。
78Rd II (CP5のみ)	ハンマーアクション部分がプラスチックになり、プリアンプもIC(集積回路)化されたことでハイファイになり、さらに明るい音になります。
Dyno (CP5のみ)	78Rd IIの音を極度にハイブーストしていて、キラキラした、80年代の音色です。
69Wr	Rd音色に比べ、柔らかなアタック音と速く減衰するディケイ音の特徴です。ダイナミックレンジは狭い音色です。
77Wr	69Wrに比べ、アタック感が強く、きらびやかな音色です。
DX Legend	今や定番で欠くことのできないDXエレクトリックピアノの典型的な音です。

CP5/CP50 のしくみ

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
[LEFT]/[RIGHT] (CP50)
- ▶ [COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]
- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]
- ▶ [UTILITY]
- ▶ [FILE]

資料

ボイス名	説明
DX Woody	ボディー部の音が太く木質感があり、まろやかなエレクトリックピアノ音色です。
DX FTine	DXエレクトリックピアノの典型的な音です。アタックがDXエレクトリックピアノの特徴を表しています。
DX 7 II	鍵盤タッチの違いによるボディー部の音色変化に、DXエレクトリックピアノならではの表現力の豊かさを感ずることが出来ます。
DX Mellow	優しい音色で、バラードによく合います。強いタッチで弾くと、かなりハードな音になります。
DX Crisp	アタックに特徴のある音色です。太い音ですが、独特のアタックにより、抜けも良い音です。

NOTE *マークがついているボイスは、「TunCrv(ピアノチューニングカーブ)」(44ページ)の「stretch」の設定が効果するボイスです。

CP5/CP50 のしくみ

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
[LEFT]/[RIGHT] (CP50)
- ▶ [COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]
- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]
- ▶ [UTILITY]
- ▶ [FILE]

資料

プリアンプブロック

このブロックは、選択中のパートにおいて、PIANOまたはE.PIANOカテゴリーのボイスが設定されている場合のみ、有効になります。PIANO/E.PIANOカテゴリーのボイスを設定すると、各ボイスに最適なピアノ音色固有のパラメーターがこのブロックに用意されます。

プリアンプブロックのパラメーターについて

エディット手順

[PRE-AMP] ボタンを長押しする (1 秒以上押ししたままにする) → [◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押してページを選択 → ノブ 1 ~ 3 を回す

ピアノ音色のボイスに連動して用意されたパラメーターを編集することで、ボイスの音質を調節します。各ボイスによって、編集できるパラメーターは異なります。次の表は、プリアンプブロックのすべてのパラメーターをアルファベット順に説明しています。

	パラメーター名	該当するボイス	説明
B	Bass	CP80、CP88、71Rd I、73Rd I、75Rd I、78Rd II、Dyno、69Wr、77Wr	低域成分のレベルを調整します。
	Brill. (Brilliance)	CP80、CP88	音質の明るさを調整します。
D	DampReso (Damper Resonance Level)	CF Grand、S6 Grand	本体に接続したサステインペダルを踏むと、ピアノのダンパーペダルを踏んだときの弦の共鳴音を再現できます。ここではその音の深さを調整します。 □設定値: -16 ~ +16
	Decay (Decay Time)	PIANOおよびE.PIANOカテゴリーの全ボイス	鍵盤を押している間の音の減衰時間を調整します。 □設定値: -16 ~ +16 NOTE このパラメーターは、パート設定の「EGDcy」(29ページ)と連動しています。
	Depth (Vibrato Depth)	71Rd I、73Rd I、75Rd I、78Rd II、69Wr、77Wr	ビブラートの深さを設定します。
G	Gain (Input Gain)	E.PIANOカテゴリーの全ボイス	プリアンプブロックに入力する信号の量を調整します。
H	Hammer (Hammer Stiffness)	CP5のみのボイスで、CF Grand、S6 Grand、CP80、CP88、71Rd I、73Rd I、75Rd I、78Rd II、Dyno、69Wr、77Wr	弦をたたくハンマーの硬さを変更するように、音色を硬いイメージや柔らかいイメージに変える効果を設定します。CP5にのみ存在するパラメーターです。 □設定値: Soft2、Soft1、Normal、Hard1、Hard2
	High	DX Legend、DX Woody、DX FTine、DX 7 II、DX Mellow、DX Crisp	高域成分のレベルを調整します。
	HighMid (High Middle)	DX Legend、DX Woody、DX FTine、DX 7 II、DX Mellow、DX Crisp	中高域成分のレベルを調整します。
K	Key-off (Key-off Noise Level)	CF Grand、S6 Grand、CP80、CP88、71Rd I、73Rd I、75Rd I、78Rd II、Dyno、69Wr、77Wr	鍵盤から指を離れたときに、ダンパーが弦を押さえる音を再現します。ここではその音の大きさを調整します。 □設定値: -16 ~ +16

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
- ▶ [LEFT]/[RIGHT] (CP50)

▶ [COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]

▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]

- ▶ [UTILITY]

- ▶ [FILE]

資料

	パラメーター名	該当するボイス	説明
L	Low	DX Legend、DX Woody、DX FTine、DX 7 II、DX Mellow、DX Crisp	低域成分のレベルを調整します。
	LowMid (Low Middle)	DX Legend、DX Woody、DX FTine、DX 7 II、DX Mellow、DX Crisp	中低域成分のレベルを調整します。
M	Middle	CP80、CP88	中域成分のレベルを調整します。
	MidBoost (Mid Boost)	69Wr、77Wr	中域成分のレベルを調整します。
N	Normal	Dyno	中域成分のレベルを調整します。
O	Overtone	Dyno	高域成分のレベルを調整します。
R	Release (Release Time)	PIANOおよびE.PIANO カテゴリーの全ボイス	鍵盤から指を離れたあとの減衰時間を調整します。 □設定値：-16 ~ +16 NOTE このパラメーターは、パート設定の「EGRel」 (29ページ)と連動しています。
S	Speed (Vibrato Speed)	71Rd I、73Rd I、75Rd I、78Rd II	ビブラートの速さを設定します。
	StrkPos (Striking Position)	71Rd I、73Rd II、75Rd I、78Rd II、Dyno、69Wr、77Wr	ハンマーがたたく振動体の部位を変更するような効果を設定します。 □設定値：Top3/2/1、Default、Rear1/2/3
T	Treble	CP80、CP88、71Rd I、73Rd I、75Rd I、78Rd II、69Wr、77Wr	高域成分のレベルを調整します。
V	Volume	E.PIANOカテゴリーの全ボイス	出力音量を調整します。ボイスが71Rd I/73Rd I/75Rd I/78Rd II/Dyno/69Wr/77Wrの場合は、「Volume」を「100」以上に設定すると、音にドライブ感が加わります。

NOTE 以下のトーンコントロールパラメーターの値を変更するとき、プリアンプブロックの出力が一瞬ミュートされます。

- ・CP80、CP88のプリアンプパラメーター「Bass」、「Middle」、「Treble」、「Brill」
- ・71Rd I、73Rd I、75Rd Iのプリアンプパラメーター「Bass」
- ・78Rd IIのプリアンプパラメーター「Treble」
- ・Dynoのプリアンプパラメーター「Bass」、「Overtone」

CP5/CP50のしくみ

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

▶ [VOICE]

▶ [PRE-AMP]

▶ [MOD-FX]

▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)

▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/
[RIGHT2] (CP5)
[LEFT]/[RIGHT] (CP50)

▶ [COMMON]

ソング設定

▶ [SONG SETTING]

▶ [RECORD]

TRACK パート

▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

▶ [MASTER COMPRESSOR]

▶ [UTILITY]

▶ [FILE]

資料

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
- ▶ [LEFT]/[RIGHT] (CP50)

▶ [COMMON]

ソング設定

▶ [SONG SETTING]

▶ [RECORD]

TRACK パート

▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

▶ [MASTER COMPRESSOR]

▶ [UTILITY]

▶ [FILE]

資料

モジュレーションエフェクトブロック

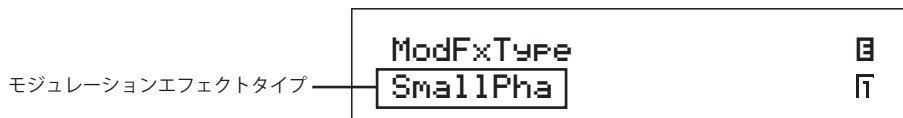
このブロックでは、選択中のパートに設定したボイスに対してモジュレーション系のエフェクトを設定し、揺れや広がり、うねりなどの効果をかけます。

モジュレーションエフェクトブロックのタイプについて

エディット手順 [MOD-FX] ボタンを長押しする(1秒以上押したままにする)→[◀ PAGE] ボタンを押して1ページ目を選択→ノブ1~3を回す

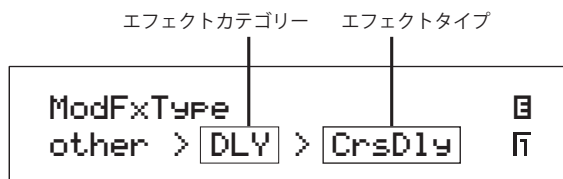
次の表では、モジュレーションエフェクトブロックの各タイプのしくみや効果について説明します。設定したボイスが PIANO/E.PIANO カテゴリーのボイスの場合は、ピアノボイスに適したモジュレーションエフェクトがメインとして選択でき、それ以外のエフェクトは「Other」というグループの中から選択できます。それに対して、PIANO/E.PIANO カテゴリー以外のボイスの場合は、インサクションエフェクトとしてモジュレーションエフェクトとそれ以外のエフェクトをカテゴリー別に選択できます。

PIANO/E.PIANO カテゴリーのボイスの場合



タイプ名	説明
SmallPha (Small Phaser)	ビンテージ系のフェーザーです。独特なうねり感が得られます。
Max90	ビンテージ系のフェーザーです。オーソドックスなフェーザー効果が得られます。
Max100	ビンテージ系のフェーザーです。「Mode」パラメーターにより幅広い効果が得られます。
Flanger	ビンテージ系のフランジャーです。
TouchWah (Touch Wah)	ビンテージ系のタッチワウです。
PedalWah (Pedal Wah)	ビンテージ系のペダルワウです。このタイプに設定する場合は、コモン設定画面の4ページ目(34ページ)でフットコントローラーに「MdEffect」を設定してお使いください。
Chorus	スタンダードなコーラスです
D Chorus	自然な柔らかい広がり感を得られるエフェクトです。
816Cho (816Chorus)	DX7の8台分に相当するTX816によって生み出される分厚いデチューンコーラスの効果を再現したエフェクトです。
Sympho (Symphonic)	変調を多重化し、より広がり感を得られるようにしたエフェクトです。
Other	PIANOおよびE.PIANO カテゴリー以外の音色に適したエフェクトグループです。このグループの中でさらにエフェクトカテゴリーおよびエフェクトタイプが複数存在します。詳しくは、次の表をご参照ください。

モジュレーションエフェクトタイプを「Other」に設定した場合は、さらにノブ2～ノブ3を回して「Other」の中のエフェクトカテゴリとエフェクトタイプを選択します。次の表では、「Other」の中のエフェクトタイプについて説明します。



エフェクトタイプ名	説明
エフェクトカテゴリ名: DLY (DELAY)	
CrsDly (CROSS DELAY)	2本のディレイのフィードバックをクロスさせたエフェクトです。左右交互にディレイ音が残ります。
T-CrsDly (TEMPO CROSS DELAY)	ディレイ長をテンポに同期させた CROSS DELAY です。
T-DlyMono (TEMPO DELAY MONO)	ディレイ長をテンポに同期させたモノラルタイプのディレイです。
T-DlySt (TEMPO DELAY STEREO)	ディレイ長をテンポに同期させたステレオタイプのディレイです。
DlyLR (DELAY LR)	L、R 2本のディレイ音を発生させるエフェクトです。2本のフィードバックディレイを持っています。
DlyLCR (DELAY LCR)	L、C、R 3本のディレイ音を発生させるエフェクトです。
DlyLR(St) {DELAY LR (Stereo)}	DELAY LR のディレイ回路をステレオ入力化したエフェクトです。
エフェクトカテゴリ名: CHO (CHORUS)	
G Cho (G CHORUS)	複雑なモジュレーションで深みのあるサウンドを得られるコーラスエフェクトです。
2Mod (2 MODULATOR)	ピッチモジュレーションとアンプモジュレーションが設定できるコーラスエフェクトです。音を自然に広げます。
SPX Cho (SPX CHORUS)	3相のLFOにより、より複雑なうねりと広がりを与えるコーラスエフェクトです。
Ensemble (ENSEMBLE DETUNE)	音程をわずかにずらした音を付加することによる、うねりのないコーラスエフェクトです。
エフェクトカテゴリ名: FLG (FLANGER)	
ClscFlg (CLASSIC FLANGER)	癖がないうねりが得られるフランジャーです。
T-Flg (TEMPO FLANGER)	LFO周期がテンポと同期するフランジャーです。
DynaFlg (DYNAMIC FLANGER)	入力音のレベルによってディレイ変調をリアルタイムにコントロールするフランジャーです。
エフェクトカテゴリ名: PHA (PHASER)	
T-Pha (TEMPO PHASER)	LFO周期がテンポと同期するフェーザーです。
DynaPha (DYNAMIC PHASER)	入力音のレベルによって位相をリアルタイムにコントロールするエフェクトです。
エフェクトカテゴリ名: T&R (TOREMOLO&ROTARY)	
AutoPan (AUTO PAN)	音像(Pan)を左右に周期的に移動させるエフェクトです。
Tremolo (TREMOLLO)	音量を周期的に変化させるエフェクトです。
Rotary (ROTARY SPEAKER)	ロータリースピーカーをシミュレートしたエフェクトです。

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
- ▶ [LEFT]/[RIGHT] (CP50)

▶ [COMMON]

ソング設定

▶ [SONG SETTING]

▶ [RECORD]

TRACK パート

▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

▶ [MASTER COMPRESSOR]

▶ [UTILITY]

▶ [FILE]

資料

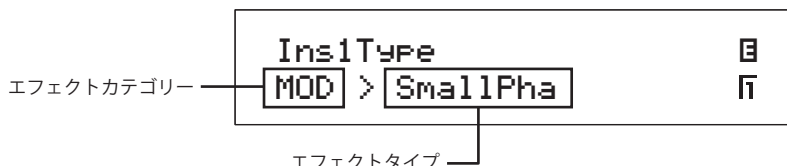
エフェクトタイプ名	説明
エフェクトカテゴリ名: DST (DISTORTION)	
AmpSim1 (AMP SIMULATOR 1)	ギターアンプをシミュレートしたエフェクトタイプです。
AmpSim2 (AMP SIMULATOR 2)	ギターアンプをシミュレートしたエフェクトタイプです。
CmpDst (COMP DISTORTION)	コンプレッサー+ディストーションエフェクトです。
CmpDst+ (COMP DISTORTION DELAY)	コンプレッサー+ディストーション+ディレイエフェクトです。
エフェクトカテゴリ名: CMP (COMPRESSOR)	
ClscCmp (CLASSIC COMPRESSOR)	比較的、効果しやすいコンプレッサーです。ソロ楽器などに適しています。
MCmp (MULTI BAND COMP)	3バンドに帯域分割を行ない、それぞれの帯域別にコンプレッサーをかけるエフェクトです。
エフェクトカテゴリ名: L-F (LO-FI)	
Lo-Fi (LO-FI)	入力音の音質を粗くするエフェクトです。
Noisy (NOISY)	ノイズ成分が多い音を意図的に作成するエフェクトです。
D-Turn (DIGITAL TURNTABLE)	ターンテーブル的なノイズを付加するエフェクトです。
エフェクトカテゴリ名: TEC (TECH)	
RingMod (RING MODULATOR)	入力音を金属的な音に変化させるエフェクトです。
DynaRing (DYNAMIC RING MODULATOR)	入力音のレベルによって、RING MODULATORのパラメーター "OSC Freq" をリアルタイムにコントロールするエフェクトです。
DynaFlt (DYNAMIC FILTER)	入力音のレベルによって、フィルターのカットオフ周波数をリアルタイムにコントロールします。
Auto Syn (AUTO SYNTH)	ディレイと変調の組み合わせで入力信号を再合成するエフェクトです。
Isoltr (ISOLATOR)	強力な効きのフィルターを使って帯域別に音量をコントロールするエフェクトです。
TechMod (TECH MODULATION)	特殊なモジュレーションをかけるエフェクトです。
エフェクトカテゴリ名: MSC (MISC)	
EQ501 (EQ 501)	"VCM" 技術を用いた5バンドEQです。
Enhans (HARMONIC ENHANCER)	入力音に新たな倍音を付加して音を際立たせるエフェクトです。
TalkMod (TALKING MODULATOR)	入力音を母音のフォルマントを持つように再合成するエフェクトです。
PchChg (PITCH CHANGE)	入力音の音程を変えるエフェクトです。
ER (EARLY REFLECTION)	リバーブの初期反射音のみを取り出したエフェクトです。

CP5/CP50 のしくみ

- リファレンス
- LEFT/RIGHT パート
 - ▶ [VOICE]
 - ▶ [PRE-AMP]
 - ▶ [MOD-FX]
 - ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
 - ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
 - ▶ [LEFT]/[RIGHT] (CP50)
 - ▶ [COMMON]
- ソング設定
 - ▶ [SONG SETTING]
 - ▶ [RECORD]
- TRACK パート
 - ▶ [TRACK]
- MIC INPUT パート
 - ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)
- 全パートに共通の設定
 - ▶ [REVERB]
- 全パフォーマンスに共通の設定
 - ▶ [MASTER COMPRESSOR]
 - ▶ [UTILITY]
 - ▶ [FILE]

資料

PIANO/E.PIANO カテゴリ以外のボイスの場合



PIANO/E.PIANO カテゴリのボイスの場合に表示されるモジュレーションエフェクトは、「MOD」というカテゴリに分類され、「Other」のエフェクトタイプと合わせてインサクションエフェクトとして設定できます。また各エフェクトタイプの説明については、「PIANO/E.PIANO カテゴリのボイスの場合」(16ページ)をご参照ください。

モジュレーションエフェクトブロックのパラメーターについて

エディット手順 [MOD-FX] ボタンを長押しする(1秒以上押ししたままにする)→[◀ PAGE]/[PAGE ▶] ボタンを押して、2 ページ目以降を選択→ノブ 1～3 を回す

モジュレーションエフェクトブロックの各タイプによって、構成されているパラメーターは異なります。各パラメーターを設定することで、エフェクトの効果のかかり方を調整します。ここでは、PIANO および E. PIANO カテゴリーに適したモジュレーションエフェクトのタイプと、「Other」のエフェクトタイプとに分けて、すべてのパラメーターをアルファベット順に説明しています。

NOTE 各タイプがどのパラメーターで構成されているかについては、データリスト(別PDFファイル)のモジュレーションエフェクトのパラメーターリストをご参照ください。

モジュレーションエフェクトタイプのパラメーター

	パラメーター名	該当するタイプ	説明
B	Bottom	Touch Wah, Pedal Wah	ワウフィルターの変調範囲の最低値を設定します。
C	Color	Small Phaser	フェーザー効果のうねり感を設定します。
D	Delay	Symphonic	変調のためのディレイタイムのオフセット値を設定します。
	Depth	Flanger, Chorus, 816Chorus, Symphonic	変調の深さを設定します。
	Drive	Small Phaser, Max90 Touch Wah, Pedal Wah	フェーザー回路に入力するレベルを設定します。 歪み方の度合を設定します。
F	Feedback	Flanger, 816Chorus	エフェクト出力を再び入力に戻すレベルを設定します。
M	Manual	Flanger	ディレイ変調のオフセット値を設定します。
	Mix	Flanger, Chorus, 816Chorus, Symphonic	ウェット音(エフェクト音)の音量を調整します。
	Mode	Max100	モードを切り替えます。
P	PdCtrl (Pedal Control)	Pedal Wah	ワウフィルターのカットオフ周波数を設定します。
	Phase	816Chorus	位相のズレを設定します。
R	Rate	Small Phaser	変調の速さを設定します。
	Reso (Resonance Offset)	Touch Wah, Pedal Wah	レゾナンスの値のオフセット値を設定します。
S	Sens. (Sensitivity)	Touch Wah	Touchのかかり具合を設定します。
	Speed	Max90, Max100, Flanger, Chorus, 816Chorus, Symphonic	変調の速さを設定します。
T	Top	Touch Wah, Pedal Wah	ワウフィルターの可変範囲の最高値を設定します。
	Type	Max90	タイプを切り替えます。
		D Chorus	プリセットタイプを選択します。

CP5/CP50 のしくみ

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
[LEFT]/[RIGHT] (CP50)

- ▶ [COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]

- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]
- ▶ [UTILITY]
- ▶ [FILE]

資料

「Other」のエフェクトタイプのパラメーター

	パラメーター名	説明
A	AEG Phase	AEGの位相をずらす
	AM Depth	音量変調の深さを設定する
	AM Inverse R	右チャンネルにおける音量変調の位相を設定する
	AM Speed	音量変調の速さを設定する
	AM Wave	音量変調用の波形を選択する
	AMP Type	シミュレートするアンプタイプを選択する
	Analog Feel	アナログフランジャーの音質を加味する
	Attack	コンプレッサー効果が効き始めるまでの時間を設定する
	Attack Time	エンベロープフォロワーの立ち上がり時間を設定する
B	Bit Assign	WordLengthの効き方を調節する
C	Click Density	クリックの発生頻度を設定する
	Click Level	クリックのレベルを設定する
	Common Release	3バンドに共通で設定するリリースタイム(コンプレッサー効果から開放されるまでの時間)を設定する
	Compress	コンプレッサーのスレッシュホールド(効果が効き始める入力レベル)値を設定する
D	Decay	リバーブの減衰感を制御する
	Delay Level C	センターチャンネルのディレイ音のレベルを設定する
	Delay Mix	複合エフェクトとしてミキシングするときのディレイ音のレベルを設定する
	Delay Offset	変調のためのディレイタイムのオフセット値を設定する
	Delay Time	ディレイの長さを音符や時間で指定する
	Delay Time C, L, R	センターチャンネル、左側チャンネル、右側チャンネルのディレイの長さをそれぞれ設定する
	Delay Time L>R	左(入力)から右(出力)へのディレイタイムを設定する
	Delay Time Ofst R	右チャンネルにおけるディレイの長さのオフセットを設定する
	Delay Time R>L	右(入力)から左(出力)へのディレイタイムを設定する
	Density	[REVERB系]リバーブの密度を設定する
		[EARLY REFLECTION]反射音の密度を設定する
	Depth	シミュレートする部屋の奥行きを設定する
	Detune	音程をずらす量を設定する
	Device	音の歪み方を変化させるデバイスを選ぶ
	Diffusion	広がり感をコントロールする
	Direction	エンベロープフォロワーによる変調の向きを設定する
	Divide Freq High	3バンドに分割するためのMid/High側の周波数を設定する
	Divide Freq Low	3バンドに分割するためのLow/Mid側の周波数を設定する
	Drive	[DISTORTION系、NOISY、SLICE]歪み方の度合を設定する
		[MISC系]効果をかける度合を設定する
Drive Horn	ホーン(高域側)の回転による変調の深さを設定する	
Drive Rotor	ローター(低域側)の回転による変調の深さを設定する	

CP5/CP50 のしくみ

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
- ▶ [LEFT]/[RIGHT] (CP50)

▶ [COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]

▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUTパート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]
- ▶ [UTILITY]
- ▶ [FILE]

資料

	パラメーター名	説明
D	Dry Level	ドライ音のレベルを設定する
	Dry LPF Cutoff Frequency	ドライ音にかけるローパスフィルターで高域をカットする周波数を設定する
	Dry Mix Level	ドライ音のレベルを設定する
	Dry Send to Noise	ノイズへ送られるドライ信号の量を設定する
	Dry/Wet Balance	ドライ音とウェット音(エフェクト音)のバランスを設定する
	Dyna Level Offset	エンベロープフォロワー出力の値を増減するオフセットを設定する
	Dyna Threshold Level	エンベロープフォロワーが動き出すレベルを設定する
E	Edge	歪み方のカーブを設定する
	Emphasis	高域の特性の変化を設定する
	EQ Frequency	EQで増減させる周波数を設定する
	EQ Gain	EQで増減させるゲインを設定する
	EQ High Frequency	高域をEQで増減させる周波数を設定する
	EQ High Gain	高域をEQで増減させるゲイン量を設定する
	EQ Low Frequency	低域をEQで増減させる周波数を設定する
	EQ Low Gain	低域をEQで増減させるゲイン量を設定する
	EQ Mid Frequency	中域をEQで増減させる周波数を設定する
	EQ Mid Gain	中域をEQで増減させるゲインを設定する
	EQ Mid Width	中域をEQで増減させる範囲の幅を設定する
	EQ Width	EQで増減させる範囲の幅を設定する
	ER/Rev Balance	初期反射音とリバース音のレベルバランスを設定する
	F	F/R Depth
FB Hi Damp Ofst R		右側チャンネルにおける高音の減衰の量のオフセットを設定する
FB Level Ofst R		右側チャンネルにおけるフィードバックの量のオフセットを設定する
Feedback High Damp		フィードバック音における高域の減衰の調整をする(値が小さいとき高域が速く減衰する)
Feedback Level		[REVERB系, EARLY REFLECTION]イニシャルディレイのフィードバック量を設定する
		[DELAY系全般, CHORUS系, FLANGER系, COMPDISTORTIONDELAY, TEC系]ディレイ出力を再び入力へ戻すレベル(マイナスは位相反転)を設定する
		[TEMPOPHASER, DYNAMIC PHASER]フェーザー出力を再び入力へ戻すレベル(マイナスは位相反転)を設定する
Feedback Level 1, 2		1,2系列目のディレイ音のフィードバックの量をそれぞれ設定する
Feedback Time		フィードバックディレイの長さを設定する
Feedback Time 1, 2, L, R		フィードバックディレイ1,2,左側,右側の長さをそれぞれ設定する
Filter Type		[LO-FI]音色効果のタイプを設定する
		[DYNAMIC FILTER]フィルターのタイプ選択をする
Fine 1, 2		1,2系列目の細かいピッチをそれぞれ設定する
H	Height	シミュレートする部屋の高さを設定する
	High Attack	高域側においてのコンプレッサー効果が効き始めるまでの時間を設定する
	High Gain	高域側においての出力のレベルを設定する
	High Level	高域のレベルを設定する

CP5/CP50 のしくみ

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
- ▶ [LEFT]/[RIGHT] (CP50)

[COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]

- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUTパート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]

- ▶ [UTILITY]

- ▶ [FILE]

資料

	パラメーター名	説明
H	High Mute	高域のミュートスイッチ
	High Ratio	[REV-XHALL、REV-X ROOM] 高域成分の調整をする
		[MULTI BAND COMP] 高域側におけるコンプレッサーの圧縮比を設定する
	High Threshold	高域側における効果が効き始める入力レベルを設定する
	Horn Speed Fast	ファスト回転時のホーン(高域側)の回転する速度を設定する
Horn Speed SLow	スロー回転時のホーン(高域側)の回転する速度を設定する	
I	Initial Delay	初期反射音までのディレイタイムを設定する
	Initial Delay 1, 2	1,2系列目の初期反射音までのディレイタイムをそれぞれ設定する
	Initial Delay Lch, Rch	左チャンネル、右チャンネルの初期反射音までのディレイタイムをそれぞれ設定する
	Input Mode	入力のモノ/ステレオ切り替えを設定する
	Input Select	入力チャンネルの選択をする
L	L/R Depth	左右のパンの深さを設定する
	L/R Diffusion	広がり感を出すための左右のディレイ差を設定する
	Lag	音符で指定されたディレイの長さに加算する値を設定する
	LFO Depth	[SPXCHORUS、CLASSICFLANGER、RINGMODULATOR] 変調の深さを設定する
		[TEMPO PHASER] 位相変調の深さを設定する
	LFO Phase Difference	変調波形のL/R位相差 (0deg (=64) で位相差なし) を設定する
	LFO Speed	[CHORUS系、FLANGER系、TREMOLO、RING MODULATOR] 変調の周波数を設定する
		[TEMPO FLANGER、TEMPO PHASER] 変調スピードを音符で指定する
		[AUTO PAN] オートパンの周波数を設定する
	LFO Wave	[FLANGER系、RING MODULATOR] 変調波形を選択する
		[AUTO PAN] パンニングカーブを変更する
	Liveness	初期反射音の減衰を設定する
	Low Attack	低域側におけるコンプレッサー効果が効き始めるまでの時間を設定する
	Low Gain	低域側における出力のレベルを設定する
	Low Level	低域のレベルを設定する
	Low Mute	低域のミュートスイッチ
	Low Ratio	[REV-XHALL、REV-X ROOM] 低域成分の調整を設定する
		[MULTI BAND COMP] 低域側におけるコンプレッサーの圧縮比を設定する
	Low Threshold	低域側における効果が効き始める入力レベルを設定する
	LPF Resonance	入力のローパスフィルターにくせを付ける
M	Mic L-R Angle	出力を取り出すマイクのL/Rの角度
	Mid Attack	中域側におけるコンプレッサー効果が効き始めるまでの時間を設定する
	Mid Gain	中域側における出力のレベルを設定する
	Mid Level	中域のレベルを設定する
	Mid Mute	中域のミュートスイッチ
	Mid Ratio	中域側におけるコンプレッサーの圧縮比を設定する
	Mid Threshold	中域側における効果が効き始める入力レベルを設定する

CP5/CP50 のしくみ

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
- ▶ [LEFT]/[RIGHT] (CP50)
- ▶ [COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]
- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]
- ▶ [UTILITY]
- ▶ [FILE]

資料

	パラメーター名	説明
M	Mix Level	ドライ音にミックスするエフェクト音のレベルを設定する
	Mod Depth	変調の深さを設定する
	Mod Depth Ofst R	右チャンネルにおける変調の深さのオフセットを設定する
	Mod Feedback	変調に対するフィードバック量を設定する
	Mod Gain	変調のゲイン量を設定する
	Mod LPF Cutoff Frequency	変調音の高域をローパスフィルターでカットする周波数を設定する
	Mod LPF Resonance	変調音にローパスフィルターでくせを付ける
	Mod Mix Balance	[NOISY]変調した成分のミックスバランスを設定する [TECH MODULATION]変調音の音量を調整する
	Mod Speed	変調の速さを設定する
	Mod Wave Type	変調用波形を選択する
	Modulation Phase	変調波形のL/R位相差を設定する
	Move Speed	Vowelで設定した音に移る時間を設定する
N	Noise Level	ノイズのレベルを設定する
	Noise LPF Cutoff Frequency	ノイズにかけるローパスフィルターで高域をカットする周波数を設定する
	Noise LPF Q	ノイズにかけるローパスフィルターのレゾナンスを設定する
	Noise Mod Depth	ノイズの変調の深さを設定する
	Noise Mod Speed	ノイズの変調スピードを設定する
	Noise Tone	ノイズの音質を設定する
O	On/Off Switch	すばやく音の変化を出すためのアイソレーターのOn/Offスイッチ
	OSC Frequency Coarse	入力波形を変調するための周波数を設定する
	OSC Frequency Fine	入力波形を変調するための周波数をより細かく設定する
	Output Gain	効果をかけた音の出力レベルを設定する
	Output Level	
	Output Level 1, 2	1,2系列目の効果をかけた音の出力レベルをそれぞれ個別に設定する
	Over Drive	歪み方の度合を設定する
P	Pan 1, 2	1,2系列目のPANをそれぞれ設定する
	Pan Direction	オートパンのタイプを設定する
	Phase Shift Offset	位相変調のオフセット値を設定する
	Pitch 1, 2	1,2系列目の半音単位のピッチをそれぞれ設定する
	PM Depth	音程変調の深さを設定する
	Pre Mod HPF Cutoff Frequency	変調変更前の低音域をカットするハイパスフィルターのカットオフ周波数を設定する
	Pre-LPF Cutoff Frequency	高域をカットするローパスフィルターのカットオフ周波数を設定する
	Pre-LPF Resonance	入力のローパスフィルターにくせを付ける
	Presence	ギターアンプなどによくみられるパラメーターで、高域をコントロールする
R	Ratio	コンプレッサーの圧縮比を設定する
	Release	コンプレッサー効果から開放されるまでの時間を設定する
	Release Curve	エンベロープフォロワーのリリースカーブを設定する

CP5/CP50 のしくみ

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
[LEFT]/[RIGHT] (CP50)
- ▶ [COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]
- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]
- ▶ [UTILITY]
- ▶ [FILE]

資料

	パラメーター名	説明
R	Release Time	エンベロープフォロワーのリリース時間を設定する
	Resonance	フィルターにくせをつける
	Reverb Delay	初期反射音からリバーブ音までのディレイタイムを設定する
	Reverb Time	リバーブの長さを設定する
	Room Size	音が鳴っている空間の大きさを設定する
	Rotor Speed Fast	ファスト回転時のローター(低域側)の回転する周波数を設定する
	Rotor Speed Slow	スロー回転時のローター(低域側)の回転する周波数を設定する
	Rotor/Horn Balance	ホーン(高音側)とローター(低音側)の音量バランスを設定する
S	Sampling Freq. Control	サンプリング周波数をコントロールする
	Sensitivity	[DYNAMICFLANGER、DYNAMICPHASER、TEC系]入力の変化に対する変調の感度を設定する
		[VCM TOUCH WAH]入力の変化に対するワウフィルターの变化の感度を設定する
	Slow-Fast Time of Horn	ホーン(高域側)における回転速度切り替え時の移行時間を設定する
	Slow-Fast Time of Rotor	ローター(低域側)における回転速度切り替え時の移行時間を設定する
	Space Type	空間シミュレーションのタイプを選択する
	Speaker Type	シミュレートスピーカーのタイプを選択する
	Speed Control	回転速度(Slow/Fast)を切り替える
	Spread	音の広がり感を設定する
	Stage	フェーズシフターの段数を設定する
T	Threshold	効果が効き始める入力レベルを設定する
	Type	反射音のタイプを選択する
V	Vowel	母音を選択する
W	Wall Vary	シミュレートする部屋の壁の状態(値が大きいほど乱反射する)を設定する
	Width	シミュレートする部屋の幅を設定する
	Word Length	音の粗さを設定する

CP5/CP50 のしくみ

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
- ▶ [LEFT]/[RIGHT] (CP50)

- ▶ [COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]
- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]
- ▶ [UTILITY]
- ▶ [FILE]

資料

パワーアンプ/コンプレッサーブロック (CP5のみ)

このブロックでは、選択中のパートに設定したボイスやエフェクトに対して、エレクトリックピアノのパワーアンプを忠実に再現した効果や、コンプレッサーなどをかけます。CP5 にのみ存在するブロックです。

パワーアンプ/コンプレッサーブロックのタイプについて

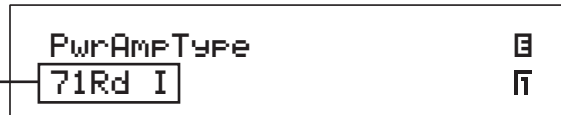
エディット手順

[PWR-AMP] ボタンを長押しする (1 秒以上押し続けたままにする) → [◀ PAGE] ボタンを押して 1 ページ目を選択する → ノブ 1 ~ 3 を回す

次の表では、パワーアンプ/コンプレッサーブロックの各タイプのしくみや効果について説明します。設定したボイスがPIANO/E.PIANOカテゴリーのボイスの場合は、ピアノボイスに適したパワーアンプ/コンプレッサーが選択でき、それ以外にも、「Other」というグループの中からエフェクトタイプを選択できます。それに対して、PIANO/E.PIANOカテゴリー以外のボイスの場合は、パワーアンプ/コンプレッサーと「Other」の中のエフェクトタイプをインサクションエフェクトとして選択できます。

PIANO/E.PIANO カテゴリーのボイスの場合

パワーアンプ/コンプレッサータイプ



タイプ名	説明
71Rd I (PowerAmp 71Rd I)	アコースティックなニュアンスを引き立たせるエレクトリックピアノ用パワーアンプです。
73Rd I (PowerAmp 73Rd I)	心地よい深みと奥行き感を演出するエレクトリックピアノ用パワーアンプです。
75Rd I (PowerAmp 75Rd I)	力強さと包み込まれるようなイメージを作り出すエレクトリックピアノ用パワーアンプです。
78Rd II (PowerAmp 78Rd II)	クリアなサウンドで抜けのよさを特徴とし、コーラスなどエフェクトとの合性が良いエレクトリックピアノ用パワーアンプです。
69Wr (PowerAmp 69Wr)	低音のパワーを強調し、濃厚な音に仕上げるエレクトリックピアノ用パワーアンプです。
77Wr (PowerAmp 77Wr)	音の存在感を増すように設定されたエレクトリックピアノ用パワーアンプです。
Clean (Clean Amp)	全体の周波数特性がフラットで理想的なパワーアンプです。
Comp376 (Compressor 376)	ビンテージ系のコンプレッサーです。
Other	PIANOおよびE.PIANOカテゴリー以外の音色に適したエフェクトグループです。このグループの中でさらにエフェクトカテゴリーおよびエフェクトタイプが複数存在します。ここで選択できるエフェクトタイプは、モジュレーションエフェクトの「Other」のエフェクトタイプ(17ページ)と同じです。

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
- ▶ [LEFT]/[RIGHT] (CP50)

[COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]
- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]
- ▶ [UTILITY]
- ▶ [FILE]

資料

PIANO/E.PIANO カテゴリー以外の場合



PIANO/E.PIANOカテゴリーのボイスの場合に表示されるパワーアンプ/コンプレッサーが、「PWR」というカテゴリーに分類され、「Other」のエフェクトタイプと合わせてインサクションエフェクトとして設定できます。また各エフェクトタイプの説明については、「PIANO/E.PIANO カテゴリーのボイスの場合」(25ページ)をご参照ください。

パワーアンプ / コンプレッサーのパラメーターについて

エディット手順 [PWR-AMP] ボタンを長押しする (1 秒以上押し続けたままにする) → [◀ PAGE]/[PAGE ▶] ボタンを押して 2 ページ目以降を選択する → ノブ 1 ~ 3 を回す

パワーアンプ/コンプレッサーの各タイプによって、構成されているパラメーターは異なります。各パラメーターを設定することで、パワーアンプ/コンプレッサーの効果のかかり方を調整します。ここでは、PIANOおよびE.PIANOカテゴリーに適した、「Other」以外のパワーアンプ/コンプレッサーのタイプのすべてのパラメーターをアルファベット順に説明しています。「Other」のエフェクトタイプのパラメーターは、すべてモジュレーションエフェクトの「Other」のパラメーター (20 ページ) と同じです。

NOTE 各タイプがどのパラメーターで構成されているかについては、データリスト (別PDFファイル) のパワーアンプ/コンプレッサーのパラメーターリストをご参照ください。

パワーアンプ / コンプレッサータイプのパラメーター

	パラメーター名	該当するタイプ	説明
A	Attack	Compressor 376	コンプレッサー効果が効き始めるまでの時間を設定します。
D	Drive	Compressor 376	コンプレッサーのかかり具合を設定します。
L	LineBal (Line Balance)	PowerAmp 71Rd I/73Rd I/75Rd I/ 78Rd II/69Wr/77Wr	スピーカーの出力 (S) と、ライン出力 (L) のバランスを調整します。
O	Output	PowerAmp 71Rd I/73Rd I/75Rd I/ 78Rd II/69Wr/77Wr、 Compressor 376、Clean Amp	出力のレベルを設定します。
R	Ratio	Compressor 376	コンプレッサーの圧縮比を設定します。
	Release	Compressor 376	コンプレッサー効果から開放されるまでの時間を設定します。

CP5/CP50 のしくみ

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
- ▶ [LEFT]/[RIGHT] (CP50)

- ▶ [COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]

- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]

- ▶ [UTILITY]

- ▶ [FILE]

資料

パート設定

ここでは、LEFT/RIGHT パートのボリュームやパン、ノートリミットなどを設定します。パート設定画面は11ページあります。

エディット手順	パート [LEFT 1]/[LEFT 2]/[RIGHT 1]/[RIGHT 2] ボタンまたは、パート [LEFT]/[RIGHT] ボタンを長押し (1 秒以上押したままに) する→ [◀ PAGE]/[PAGE ▶] ボタンを押してページを選択→ノブ 1～3 を操作
---------	--

ページ	パラメーター名	説明
1	Volume (ボリューム)	パートの音量を設定します。 □設定値: 0 ~ 127
	Pan (パン)	パートのパン(ステレオ定位)を設定します。 □設定値: L63 (左端) ~ C (センター) ~ R63 (右端)
	RevSend (リバーブ SEND)	パートのリバーブエフェクトへ送る信号の量を設定します。値を大きくするとリバーブが深くなります。 □設定値: 0 ~ 127
2	NoteSht (ノートシフト)	パートのピッチを半音単位で調整します。 □設定値: -24 ~ +24 [semitones]
	Detune (デチューン)	パートのピッチを0.1ヘルツ単位で微調整します。 □設定値: -12.8 ~ +12.7 [Hz]
	PBRange (ピッチベンドレンジ)	選択中のパートにおけるピッチベンドホイールの変化幅を半音単位で設定します。たとえば、設定値を「12」にした場合、変化幅は-12(1オクターブ下) ~ +12(1オクターブ上)になります。 □設定値: 0 ~ 12
3	TuningNo. (マイクロチューニングナンバー)	音律(調律法)を設定します。全部で7種類の音律が用意されています。現在最も一般的なピアノの調律法「平均律」が完成するまでには、時代と共にさまざまな音律が考えられ、またそれによる音楽が誕生しました。当時の調律法で演奏することでその曲が誕生したときの響きを味わえます。 □設定値: 00 Equal Temp (イコール = 平均律) 1オクターブを12の間隔で等分した音律です。現在もっともポピュラーなピアノの調律法です。 01 PureMaj (ピュアメジャー = 純正律「長調」) 02 PureMin (ピュアマイナー = 純正律「短調」) 自然倍音を基準とするため、主要3和音が美しく純粋に響くのが特長です。現在でも合唱のハーモニーなどで見られます。 03 Pythag (ピタゴリアン = ピタゴラス音律) ギリシャ時代の哲学者ピタゴラスによって考えられた5度音程だけの組み合わせからできた音律です。3度はうなりが生じますが5度と4度の音程が美しく、旋律の演奏に向いています。 04 MeanTn (ミーントーン = 中全音律) ピタゴラス音律の3度の音程のうなりをなくすために改良された音律です。十六世紀後半から十八世紀後半までにかけて広く普及し、ヘンデルも使用しました。 05 Werckmeist (ヴェルクマイスター) 06 KirmBerger (キルンベルガー) 中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた音律で、両者はその組み合わせ方が異なります。転調により曲想が変化するのが特長です。バッハやベートーベン時代に使用され、現在でもその時代の音楽をハープシコード(=チェンバロ)などで演奏するときにはしばしば用いられます。
	TunRoot (マイクロチューニングルート)	パートの音律の基準となる音を設定します。音律によっては、基準音の設定が必要ないものもあります。 □設定値: C ~ B

CP5/CP50 のしくみ

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
- ▶ [LEFT]/[RIGHT] (CP50)

[COMMON]

ソング設定

▶ [SONG SETTING]

▶ [RECORD]

TRACK パート

▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

▶ [MASTER COMPRESSOR]

▶ [UTILITY]

▶ [FILE]

資料

ページ	パラメーター名	説明
4	PrtMode (パートモード)	<p>パートの発音方式を選択します。</p> <p><input type="checkbox"/>設定値: mono (モノ)、poly (ポリ)</p> <p>mono 単音で演奏する状態です。レガート演奏をするとアタック音が出ないため、滑らかな演奏を再現できます。</p> <p>poly 和音で演奏できる状態です。</p>
	VelDpt (ベロシティー センシティブィティ デプス)	<p>選択中のパートにおいて、「鍵盤を弾いたときのベロシティー」に対する「実際に音源部へ送るベロシティー」の変化の度合いを設定します。図のように、値を大きくするほど、「鍵盤を弾いたときのベロシティー」に対して「実際に音源部へ送るベロシティー」の変化が大きくなり、グラフの傾きが急になります。値を0に設定すると、「鍵盤を弾いたときのベロシティー」が変化しても「実際に音源部へ送るベロシティー」は変化しなくなり、オルガンのようにベロシティー変化のない状態になります。</p> <p><input type="checkbox"/>設定値: 0 ~ 127</p>
	VelOfs (ベロシティー センシティブィティ オフセット)	<p>選択中のパートにおいて、実際に音源部へ送るベロシティーの値を一律に増減します。図のように、ここでの設定値から64を引いた値が実際のベロシティー値にプラス/マイナスされます。ただし、プラス/マイナスした結果、ベロシティーが1より小さくなる場合は1になり、127より大きくなる場合は127になります。</p> <p><input type="checkbox"/>設定値: 0 ~ 127</p>

CP5/CP50 のしくみ

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
- ▶ [LEFT]/[RIGHT] (CP50)

▶ [COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]
- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

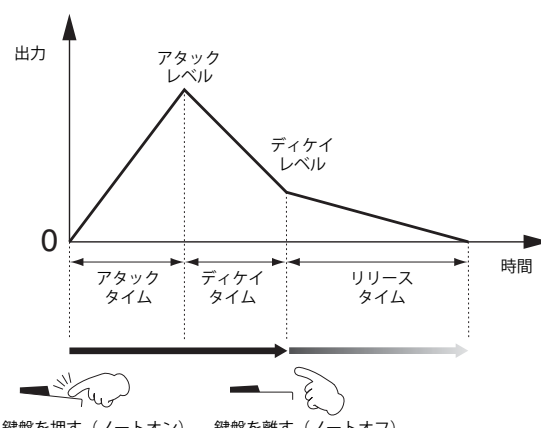
全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]
- ▶ [UTILITY]
- ▶ [FILE]

資料

ページ	パラメーター名	説明
5	PortaSw (ポルタメントスイッチ)	選択中のパートにおいて、ポルタメント効果をかけるか(on)、かけないか(off)を設定します。 □設定値: off, on
	Time (ポルタメントタイム)	選択中のパートにおいて、ポルタメントのピッチ変化にかかる時間を設定します。 □設定値: 0 ~ 127
	Mode (ポルタメントモード)	選択中のパートにおいて、鍵盤の弾き方により、どのようにポルタメント効果がかかるかを設定します。 □設定値: fingr (フィンガード)、full (フルタイム) fingr レガート演奏(あるキーを押したまま次のキーを押す演奏)をしたときにだけ、ポルタメントの効果が掛かります。 full 常にポルタメントの効果が掛かります。
6	F.Cutoff (フィルターカットオフ)	フィルターが不要な信号を削るときの基準となる周波数のことをカットオフ周波数と呼びます。カットオフ周波数を設定することで、フィルターのかかり方を調整できます。ここでは、パートに設定されているフィルターのカットオフ周波数に対して、増減する値を設定します。 □設定値: -64 ~ +0 ~ +63
	F.Reso (フィルターレゾナンス)	パートに設定されているフィルターのResonance(レゾナンス)/Width(ウイズ)に対して、増減する値を設定します。 □設定値: -64 ~ +0 ~ +63
7	EGAtk (AEG アタックタイム) EGDcy (AEG ディケイタイム) EGRel (AEG リリースタイム)	<p>パートのアンプリチュードEGの音量変化の時間を設定します。値を大きくすると、次のレベルに達するまでの時間が長くなり、変化がゆっくりになります。 □設定値: -16 ~ +16</p> <p>EGAtk (AEG アタックタイム) 鍵盤を押してから最大レベルになるまでの時間を設定します。</p> <p>EGDcy (AEG ディケイタイム) 最大レベルに達してから、ディケイレベルに達するまでの時間を設定します。</p> <p>EGRel (AEG リリースタイム) 鍵盤を離してから音が消えるまでの時間を設定します。</p>  <p>NOTE 「EGDcy」と「EGRel」はブリアンプブロックの「Decay」と「Release」(14ページ)と連動しています。</p>
8	NoteLimit (ノートリミット)	パートの発音する音域を設定します。ノブ1で最低音を、ノブ2で最高音を設定します。 □設定値: C-2 ~ G8

CP5/CP50 のしくみ

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
- ▶ [LEFT]/[RIGHT] (CP50)

- ▶ [COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]
- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]
- ▶ [UTILITY]
- ▶ [FILE]

資料

ページ	パラメーター名	説明
9	RcvCC (レシーブスイッチ コントロールチェンジ) RcvPB (レシーブスイッチ ピッチベンド)	<p>選択中のパートにおいて、コントロールチェンジなどのMIDIメッセージを、受信する(on)か、しない(off)かを設定します。</p> <p>□設定値 : off, on</p> <p>NOTE 「RcvCC」</p> <p>を「off」にすると、コントロールチェンジに関するパラメーター(「RcvPB」以外)はすべて設定できなくなります。</p>
0 (10)	<p>CP5 の場合:</p> <p>RcvFC1 (レシーブスイッチ フットコントローラー1)</p> <p>RcvFC2 (レシーブスイッチ フットコントローラー2)</p> <p>RcvFS (レシーブスイッチ フットスイッチ アサインナブル)</p> <p>CP50 の場合:</p> <p>RcvFC (レシーブスイッチ フットコントローラー)</p> <p>RcvFS: (レシーブスイッチ フットスイッチ アサインナブル)</p>	
A (11)	RcvSus (レシーブスイッチ サステインペダル) RcvVol (レシーブスイッチ ボリューム) RcvPan (レシーブスイッチパン)	

CP5/CP50 のしくみ

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
[LEFT]/[RIGHT] (CP50)

- ▶ [COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]
- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]
- ▶ [UTILITY]
- ▶ [FILE]

資料

コモン

LEFT/RIGHT パートの全パートに共通するパラメーターを設定します。コモンの設定画面は 5 ページあります。

パフォーマンスの名前と鍵盤の発音方式を設定する (1/5～2/5ページ)

エディット手順	[COMMON] ボタンを押す→[◀ PAGE]/[PAGE ▶] ボタンを押して 1～2 ページ目を表示 →ノブ 1、ノブ 2 を操作
---------	---

ページ	パラメーター名	説明
1	Name (ネーム)	エディット中のパフォーマンスの名前を表示します。最大10文字の名前を設定できます。名前を設定方法については、取扱説明書(冊子)の「基本操作」をご参照ください。
	Cursor(カーソル)	ノブ1を回すことによって、パフォーマンスネームのカーソルを1文字ずつ移動させます。
	Data (データ)	ノブ2を回すことによって、パフォーマンスネームのカーソルがある位置の文字を変更します。 □設定値: ・英小文字abcdefghijklmnopqrstuvwxyz ・英大文字ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ ・数字、記号...0123456789!#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[^_`{ }~
2	Split (スプリット)	パート別に発音領域を高音部と低音部に分ける(スプリット)かどうかを設定します。「on」に設定すると、「Point」で設定されたノートを境にして、低音部の鍵盤をLEFTパートのノートリミット、高音部の鍵盤をRIGHTパートのノートリミットに設定します。「off」に設定すると、各パートが各ノートリミット設定(29ページ)に従って発音します。 □設定値: off, on
	Point (ポイント)	LEFT/RIGHTパートの音域を分けるスプリットポイントを設定します。 □設定値: C-2～G8
	ZoneEdit (ゾーンエディット)	ノブ3を押すと、ゾーンエディット画面(32ページ)に入ります。

CP5/CP50 のしくみ

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
[LEFT]/[RIGHT] (CP50)

[COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]
- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUTパート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]
- ▶ [UTILITY]
- ▶ [FILE]

資料

■ ゾーンエディット

ここでは、CP5/CP50 をマスターキーボードとして使う場合の設定をします。ゾーンエディットの設定画面で「ZoneSw」を「on」にすると、鍵盤を最大4つの領域(ゾーン)に分け、領域ごとに内部音源と外部音源の鳴らしわけや、両方を同時に鳴らすことができます。ゾーンエディット画面は、コモン設定画面の2ページ目で、ノブ3(「ZoneEdit [PUSH]」)を押すと表示されます。

エディット手順	[COMMON] ボタンを押す→[◀ PAGE]/[PAGE ▶] ボタンを押して2ページ目を表示→ノブ3(「ZoneEdit」)を押す
---------	--

ページ	パラメーター名	説明
全ページ	Zone (ゾーン)	エディット対象となるゾーンを設定します。ただし、1ページ目は全ゾーン共通の設定のため、「COMMON」という表示に固定されています。 □設定値: zone1、zone2、zone3、zone4
1	ZoneSw (ゾーンスイッチ)	鍵盤を4つのゾーンに分けて使う(on)か、使わないか(off)を設定します。
2	Target (ターゲット)	選択中のゾーンでコントロールする音源を選択します。 □設定値: off.....選択中のゾーンがオフになります。 TG.....本体の音源をコントロールします。 MIDI.....本体に接続した外部音源をコントロールします。 both.....本体の音源と、本体に接続した外部音源の両方を同時にコントロールします。
	TransCh (トランスミットチャンネル)	選択中のゾーンにおける操作のMIDI送信チャンネルを設定します。「Target」を「MIDI」または「both」に設定している場合のみ設定可能なパラメーターです。 □設定値: 1 ~ 16
3	Octave (オクターブ)	鍵盤の音程をオクターブ単位で上下に移動します。 □設定値: -3 ~ +0 ~ +3
	Trnsps (トランスポーズ)	鍵盤の音程を半音単位で移調します。 □設定値: -11 (semi) ~ +0 (semi) ~ +11 (semi)
4	NoteLimit (ノートリミット)	選択中のゾーンの発音する音域を設定します。ノブ2で最低音を、ノブ3で最高音を設定します。 □設定値: C-2 ~ G8
5	MIDIBankSel (MIDI バンクセレクト)	ノブ2/ノブ3を回して、外部音源へのMIDIメッセージとなるバンクセレクトMSB/LSBおよびプログラムチェンジナンバーを設定します。このメッセージにより、選択中のゾーンの音色を指定します。設定した番号に該当する音色は、外部音源によって異なります。「off」に設定すると、このMIDIメッセージを外部音源に送信しない状態になります。
6	MIDI Pgm Chg (MIDI プログラムチェンジナンバー)	□設定値: MIDIBankSel off、0 ~ 127 MIDI Pgm Chg off、1 ~ 128
7	Volume (ボリューム)	選択中のゾーンの音量を設定します。 □設定値: 0 ~ 127
	Pan (パン)	選択中のゾーンの音の定位(パン)を設定します。 □設定値: L63 ~ C ~ R63

CP5/CP50 のしくみ

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
[LEFT]/[RIGHT] (CP50)

- ▶ [COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]

- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]

- ▶ [UTILITY]

- ▶ [FILE]

資料

ページ	パラメーター名	説明
8	CP5 の場合 TxFC1 (トランスミット フットコントローラー1) TxFC2 (トランスミット フットコントローラー2) CP50 の場合 TxFC (トランスミット フットコントローラー)	選択中のゾーンにおいて、フットコントローラー1/2、サステインペダル、フットスイッチ、ピッチバンドホイールのMIDIメッセージを送信する (on) か、送信しない (off) かを設定します。 <input type="checkbox"/> 設定値 : off, on
9	TxSus (トランスミット サステインペダル) TxFS (トランスミット フットスイッチ)	
0 (10)	TxPB (トランスミット ピッチバンドホイール)	

CP5/CP50 のしくみ

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
- ▶ [LEFT]/[RIGHT] (CP50)

▶ [COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]
- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]
- ▶ [UTILITY]
- ▶ [FILE]

資料

コントローラーの設定をする (3/5 ~ 5/5 ページ)

エディット手順 [COMMON] ボタンを押す→[◀ PAGE]/[PAGE ▶] ボタンを押して 3 ~ 5 ページ目を表示
→ノブ 1 ~ 3 を操作

ページ	パラメーター名	説明								
3 ~ 5 ページ	Source (ソース)	設定対象のコントローラーを選択します。 □設定値: CP5 の場合 PB (ピッチバンドホイール)、FC1 (フットコントローラー1)、FC2 (フットコントローラー2)、FS (フットスイッチアサインナブル) CP50 の場合 PB (ピッチバンドホイール)、FC (フットコントローラー)、FS (フットスイッチアサインナブル) FC1/FC2 (CP5) または FC (CP50) FOOT CONTROLLER 端子に接続したフットコントローラーです。 FS FOOT SWITCH [ASSIGNABLE] 端子に接続したフットスイッチです。								
3	CP5 の場合 L1Dest (LEFT1 パート デスティネーション) L2Dest (LEFT2 パート デスティネーション) CP50 の場合 LDest (LEFT パート デスティネーション)	「Source」で設定したコントローラーに割り当てる機能をパートごとに設定します。 □設定値: 次の表をご参照ください。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>Source</th> <th>Destination</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PB (ピッチバンド)</td> <td>off、modFx (モジュレーションエフェクト)</td> </tr> <tr> <td>FC1/FC2 (フットコントローラー1/2) または FC (フットコントローラー)</td> <td>off、volume、modFx</td> </tr> <tr> <td>FS (フットスイッチアサインナブル)</td> <td>off、vibrato、modFx、pwrAmp (CP5 のみ)</td> </tr> </tbody> </table>	Source	Destination	PB (ピッチバンド)	off、modFx (モジュレーションエフェクト)	FC1/FC2 (フットコントローラー1/2) または FC (フットコントローラー)	off、volume、modFx	FS (フットスイッチアサインナブル)	off、vibrato、modFx、pwrAmp (CP5 のみ)
Source	Destination									
PB (ピッチバンド)	off、modFx (モジュレーションエフェクト)									
FC1/FC2 (フットコントローラー1/2) または FC (フットコントローラー)	off、volume、modFx									
FS (フットスイッチアサインナブル)	off、vibrato、modFx、pwrAmp (CP5 のみ)									
4	CP5 の場合 R1Dest (RIGHT1 パート デスティネーション) R2Dest (RIGHT2 パート デスティネーション) CP50 の場合 RDest (RIGHT パート デスティネーション)	NOTE 「Source」が「PB」、「FC1」、「FC2」または「FC」に設定されている場合は、デスティネーションに「modFx」を設定すると、モジュレーションエフェクトブロックのパラメーターのうち1つのパラメーター設定値を該当コントローラーから増減できるようになります。どのパラメーターが割り当てられるかは、各ブロックに割り当てられているタイプによって異なります。詳しくはデータリスト(別PDFファイル)のモジュレーションエフェクトのパラメーターリストをご参照ください。表の「Control」欄に●印がついているパラメーターが、コントローラーに割り当てられるパラメーターになります。 NOTE 「Source」が「FS」に設定されている場合は、そのコントローラーを押すことで、デスティネーションに割り当てた機能をオン/オフします。デスティネーションが「vibrato」/「modFx」/「pwrAmp」の場合は、「PRE-AMP」/「MOD-FX」/「PWR-AMP」ボタンを押したときと同じ効果になります。各ボタンを押したときの効果について詳しくは、取扱説明書(冊子)の「クイックガイド」をご参照ください。								
5	Mode (スイッチモード)	「Source」を「FS」に設定したときのみ表示されます。設定対象のコントローラーがラッチタイプとモーメンタリータイプのどちらで働くかを設定します。ラッチタイプ(latch)ではスイッチを押すとオン/オフの切り替えになり、モーメンタリータイプ(momentary)ではスイッチを押している間だけオンになります。 □設定値: momentary (モーメンタリー)、latch (ラッチ)								

CP5/CP50 のしくみ

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5 のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
[LEFT]/[RIGHT] (CP50)
- ▶ [COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]
- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5 のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]
- ▶ [UTILITY]
- ▶ [FILE]

資料

ソング設定

ここでは、バックキングとして鳴らすソングの設定に関するパラメーターについて説明します。[SONG SETTING] ボタンを押して表示されるソング設定画面と、[REC] ボタンを押して表示されるレコード画面に分けて説明します。

ソング設定画面

ここでは、バックキングとして使用するソングの選択やテンポ設定などを行ないます。ソング設定画面は3ページあります。

エディット手順 [SONG SETTING] ボタン→[◀ PAGE]/[PAGE ▶] ボタンを押してページを選択→ノブ1～3を操作

ページ	パラメーター名	説明
1	Type (タイプ)	<p>バックキングとして使用するデータの種類を選択します。</p> <p>□設定値: PreDrum (プリセットドラム)、UsrSong (ユーザーソング)、Wave (Wave ファイル)</p> <p>NOTE それぞれの設定値について詳しくは、「CP5/CP50のしくみ」の3ページをご覧ください。</p> <p>「Type」=「PreDrum」の場合</p> <p style="text-align: center;">選択中のドラムフレーズ/ドラムキットの名前</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>ノブ2を回して、設定対象となる「Phrase」と「Kit」を切り替えます。「Phrase」を設定した場合は、ノブ3を回してドラムフレーズのナンバーを選択します。「Kit」を設定した場合は、ノブ3を回してドラムキット(ドラムの音色)を選択します。選択されたドラムフレーズまたはドラムキットの名称は、画面上の右上に表示されます。</p> <p>「Type」=「UsrSong」の場合</p> <p style="text-align: center;">選択中のユーザーソングの名前</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>ノブ3を回して、ユーザーソングのナンバーを選択します。選択されたユーザーソングの名称は、画面上の右上に表示されます。</p> <p>「Type」=「Wave」の場合</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>ノブ3を回して、Waveファイルを選択します。本体に接続しているUSBフラッシュメモリーのルートディレクトリーにあるWaveファイルを選択できます。</p>

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
- ▶ [LEFT]/[RIGHT] (CP50)
- ▶ [COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]
- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]
- ▶ [UTILITY]
- ▶ [FILE]

資料

ページ	パラメーター名	説明
2	Tempo (テンポ)	<p>ソングおよびクリック音の再生テンポを設定します。このパラメーターの設定は、レコード画面の「Tempo」(38ページ)と連動しています。</p> <p>□設定値: 30 ~ 300</p> <p>NOTE ソング再生テンポを、外部MIDI機器またはDAWソフトウェアのテンポに同期させたい場合、ユーティリティー設定画面の6ページ目にある「MIDISyn」(46ページ)を「ext」/「auto」に設定します。「ext」に設定した場合または「auto」に設定して外部クロックを受信している場合、このテンポの設定値が「ext」となり、変更できません。</p>
	Beat (ビート)	<p>ソングおよびクリック音の拍子を設定します。このパラメーターの設定は、レコード画面の「Beat」(38ページ)と連動しています。</p> <p>□設定値: 1/4 ~ 16/4, 1/8 ~ 16/8, 1/16 ~ 16/16</p>
3	StartKey (スタートキー)	<p>選択したバックアップソングの再生や録音開始のきっかけとなるキーを設定します。[■](ストップ)ボタンを押しながら、▶/■(プレイ/ポーズ)ボタンを押すと再生または録音のスタンバイ状態になります。その状態で、ここで設定したキーにあたる鍵盤を押すと、バックアップソングの再生または録音が始まります(キーオンスタート機能)。「all」に設定すると、どの鍵盤を押しても再生が始まります。</p> <p>□設定値: C-2 ~ G8, all</p>
	AutoKeyOn (オートキーオンスタート)	<p>パフォーマンス切り替え時に自動的にバックアップソング再生のキーオンスタートをスタンバイ状態にするかどうかを設定します。ここが「on」に設定されているパフォーマンスに切り替えると、▶/■(プレイ/ポーズ)ボタンのランプ(SYNC STARTランプ)が点滅し、「StartKey」で設定したキーを押すとバックアップソングの再生が開始する状態になります。</p> <p>□設定値: off, on</p>
4	Rename (リネーム)	<p>ノブ1を押すと、選択したバックアップデータの名前を編集するリネーム画面に入ります。1ページ目の「Type」にユーザーソングまたはWaveファイルを設定している場合のみ、有効な機能です。</p> <p>リネーム画面では、ノブ1 (Cursor)を回して、表示中の名前カーソルを1文字ずつ移動します。また、ノブ2 (Data)を回してカーソルがある位置の文字を変更します。[ENTER]ボタンを押すと、設定した名前が確定され、ソング設定画面の3ページ目に戻ります。また、名前編集をキャンセルしたい場合は、[EXIT]ボタンを押します。</p> <p>NOTE 本体で録音したWaveファイルを選択した場合、ファイル名の7~8文字目の記号{}はそのままだとさせていただきます。変更すると、本体での再生音量が非常に小さくなります。</p> <p>⚠注意 本体以外で生成したWaveファイルの名前を変更したい場合、7~8文字目に{}をつけないでください。7~8文字目に{}をつけると、本体で再生したときに自動的に音量が加算されて大音量になる可能性があります。</p>
	Delete (デリート)	<p>選択したバックアップデータを削除します。1ページ目の「Type」にユーザーソングまたはWaveファイルを設定している場合のみ、有効な機能です。ノブ2を押すと、データを削除してよいか確認する画面が表示されます。この画面では、ノブ1 (YES [PUSH])または[ENTER]ボタンを押すと削除が実行され、ノブ3 (NO [PUSH])または[EXIT]ボタンを押すと削除がキャンセルされます。</p>
	MemInfo (メモリーインフォメーション)	<p>ユーザーソングを保存するメモリー(シーケンサーメモリー)の容量を表示します。ノブ3を押すと、インフォメーション画面に入ります。インフォメーション画面で表示されるパラメーターは以下のとおりです。</p> <p>Free (フリー) シーケンサーメモリーの空き容量を表示します。全容量に対する割合も、パーセントで表示します。</p> <p>Total (トータル) シーケンサーメモリーの全容量を表示します。</p>

CP5/CP50 のしくみ

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
- ▶ [LEFT]/[RIGHT] (CP50)

▶ [COMMON]

ソング設定

▶ [SONG SETTING]

▶ [RECORD]

TRACK パート

▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

▶ [MASTER COMPRESSOR]

▶ [UTILITY]

▶ [FILE]

資料

レコード画面

ここでは、バッキングとして使用するユーザーソングまたはWaveファイルの録音を行ないます。レコード画面は4ページあります。

エディット手順 [RECORD] ボタン→ [◀ PAGE]/[PAGE ▶] ボタンを押してページを選択→ノブ1～3を操作

ページ	パラメーター名	説明
1	Rec (レコードタイプ)	<p>ノブ1を回して録音するデータの種類を選択します。「Song」を選択した場合はユーザーソングとして録音され、「Wave」を選択した場合は本体に接続したUSBフラッシュメモリーにWaveファイルとして保存されます。</p> <p><input type="checkbox"/>設定値: Song (ユーザーソング)、Wave (Wave ファイル)</p> <p>Song ソング設定画面(35ページ)でバッキングデータのタイプをユーザーソングに設定している場合は、設定されているユーザーソングが録音先に設定されます。また、バッキングデータのタイプをプリセットドラムまたはWaveファイルに設定している場合は、自動的に空のユーザーソングが録音先に設定されます。ただし、空のユーザーソングがない場合はメッセージが表示されます。その場合、ソング設定画面(35ページ)でいずれかのユーザーソングを削除しないと、ソングを録音できません。</p> <p>Wave 本体に接続しているUSBフラッシュメモリー上に存在しないWaveファイルの名前が自動で設定され、新たなWaveファイルが録音されます。</p>
	Name (ネーム)	<p>「Rec」を「Wave」に設定した場合に表示されます。ノブ3を押すと、録音するWaveファイルの名前を変更するネーム画面に入ります。</p> <p>ネーム画面では、ノブ1 (Cursor) を回して、表示中の名前カーソルを1文字ずつ移動します。また、ノブ2 (Data) を回してカーソルがある位置の文字を変更します。変更できる文字は、アルファベットの太文字と、数字、記号になります。</p> <p>[ENTER] ボタンを押すと、設定した名前が確定され、レコード画面の1ページ目に戻ります。ただし、本体に接続しているUSBフラッシュメモリー上に同じ名前のWaveファイルが存在している場合は、録音開始時にエラーメッセージが表示され、録音できません。また、名前の編集をキャンセルしたい場合は、[EXIT] ボタンを押します。</p> <p>ネーム画面</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>Name=[WAVE001] (Cursor) (Data)</p> </div> <p>NOTE 本体で録音するWaveファイルの名前には、必ず7～8文字目に}という記号がつき、録音前には編集できません。録音後は編集できますが、この2文字については消さないでください。本体で作成したWaveファイルは再生音量が鍵盤音に比べ非常に小さくなるので、}を7～8文字目につけることにより音量を上げ、鍵盤音とのバランスをとります。</p>
2	Mode (モード)	<p>録音方法を選びます。録音対象を「Wave」に設定している場合は、このパラメーターは無効になります。</p> <p><input type="checkbox"/>設定値: replace (リプレース)、overdub (オーバーダブ)</p> <p>replace 録音先のユーザーソングにすでにデータが存在している場合、上書きして録音する方法です。</p> <p>overdub 録音先のユーザーソングにすでにデータが存在している場合、重ねて録音する方法です。</p>
	Meas (メジャー)	<p>録音を始める位置を設定します。録音対象を「Wave」に設定している場合は、このパラメーターは無効になります。</p> <p><input type="checkbox"/>設定値: 001 ~ 999</p> <p>NOTE すでにデータが入っているユーザーソングが録音先に設定されている場合、「Meas」は、データが存在する小節までが最大設定値になります。</p>

CP5/CP50 のしくみ

- リファレンス
- LEFT/RIGHT パート
 - ▶ [VOICE]
 - ▶ [PRE-AMP]
 - ▶ [MOD-FX]
 - ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
 - ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
 - ▶ [LEFT]/[RIGHT] (CP50)
 - ▶ [COMMON]
- ソング設定
 - ▶ [SONG SETTING]
 - ▶ [RECORD]
- TRACK パート
 - ▶ [TRACK]
- MIC INPUT パート
 - ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)
- 全パートに共通の設定
 - ▶ [REVERB]
- 全パフォーマンスに共通の設定
 - ▶ [MASTER COMPRESSOR]
 - ▶ [UTILITY]
 - ▶ [FILE]

資料

ページ	パラメーター名	説明
3	Tempo (テンポ)	<p>ソングおよびクリック音の再生テンポを設定します。録音対象を「Song」に設定している場合は、ここで設定したテンポが、録音後のソングのテンポになります。このパラメーターの設定は、ソング設定画面の「Tempo」(36ページ)と連動しています。</p> <p>□設定値: 30 ~ 300</p> <p>NOTE ソング再生テンポを、外部MIDI機器またはDAWソフトウェアのテンポに同期させたい場合、ユーティリティ設定画面の6ページ目にある「MIDISyn」(46ページ)を「ext」/「auto」に設定します。「ext」に設定した場合または「auto」に設定して外部クロックを受信している場合、このテンポの設定値が「ext」となり、変更できません。</p>
	Beat (ビート)	<p>ソングおよびクリック音の拍子を設定します。このパラメーターの設定は、ソング設定画面の「Beat」(36ページ)と連動しています。</p> <p>□設定値: 1/4 ~ 16/4, 1/8 ~ 16/8, 1/16 ~ 16/16</p>
	Click (クリック)	<p>メトロノーム音を鳴らすかどうかを切り替えます。このパラメーターの設定は、ユーティリティ設定画面の7ページ目の「Click」と連動しています。</p> <p>□設定値: off, on</p>
4	RecCount (レックカウント)	<p>録音を始めるときのレックカウント音を鳴らすかどうかを切り替えます。このパラメーターは、ユーティリティ設定画面の7ページ目にある「RecCnt」と連動しています。</p> <p>□設定値: off, on</p>
	Undo (アンドゥー)	<p>最後に録音したデータに戻します(アンドゥー)。録音を1回以上行なった場合に有効になるパラメーターです。ノブ3を押すと、データを前の状態に戻してよいか確認する画面が表示されます。この画面では、ノブ1 (YES [PUSH]) または [ENTER] ボタンを押すとアンドゥーが実行され、ノブ3 (NO [PUSH]) または [EXIT] ボタンを押すとアンドゥーがキャンセルされます。</p> <p>録音対象を「Wave」に設定している場合は、常にこのパラメーターは無効になります。</p>

CP5/CP50 のしくみ

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
- ▶ [LEFT]/[RIGHT] (CP50)

[COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]
- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]
- ▶ [UTILITY]
- ▶ [FILE]

資料

TRACK パート

バッキングデータとしてプリセットドラムまたは Wave ファイルを設定した場合、そのデータは TRACK パートに割り当てられます。ここでは、TRACK パートにおいて設定できるパラメーターについて説明します。

エディット手順 [TRACK] ボタンを長押し(1 秒以上押ししたままにする)→ノブ 1～3 を操作

パラメーター名	説明
Volume (ボリューム)	パートの音量を設定します。[TRACK] ノブから直接操作可能なパラメーターです。 □設定値: 0～127
Pan (パン)	パートのパン(ステレオ定位)を設定します。このパラメーターは、バッキングデータがプリセットドラムの場合のみ有効です。 □設定値: L63 (左端)～C (センター)～R63 (右端)
RevSend (リバーブセンド)	パートのリバーブエフェクトへ送る信号の量を設定します。値を大きくするとリバーブが深くなります。このパラメーターは、バッキングデータがプリセットドラムの場合のみ有効です。 □設定値: 0～127

CP5/CP50 のしくみ

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
[LEFT]/[RIGHT] (CP50)
- ▶ [COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]
- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]
- ▶ [UTILITY]
- ▶ [FILE]

資料

MIC INPUT パート (CP5 のみ)

ここでは、CP5のMIC INPUTパートにおいて設定できるパラメーターについて説明します。MIC INPUTパートの設定画面は2ページあります。

エディット手順 [MIC INPUT] ボタンを長押し(1秒以上押し続けたままにする)→[◀ PAGE]/[PAGE ▶] ボタンを押してページを選択→ノブ1～3を操作

ページ	パラメーター名	説明
1	Volume (ボリューム)	パートの音量を設定します。[MIC INPUT]ノブから直接操作可能なパラメーターです。 □設定値: 0 ~ 127
	Pan (パン)	パートのパン(ステレオ定位)を設定します。 □設定値: L63 (左端) ~ C (センター) ~ R63 (右端)
	RevSend (リバーブセンド)	パートのリバーブエフェクトへ送る信号の量を設定します。値を大きくするとリバーブが深くなります。 □設定値: 0 ~ 127
2	MicFx (マイクエフェクト)	ノブ1を押すと、マイクエフェクト画面(下記)に入ります。マイクエフェクト画面では、マイク入力の信号に効果させるコンプレッサー、ノイズゲート、EQの設定をします。
	MicIns (マイクインサージョン)	ノブ2を押すと、マイクインサージョン画面(41ページ)に入ります。マイクインサージョン画面では、マイク入力の信号に効果させるインサージョンエフェクトの設定をします。

マイクエフェクト画面

ここでは、MIC INPUT (マイク入力) 端子からのオーディオ信号に対して効果させるコンプレッサー、ノイズゲート、EQに関する設定をします。マイクエフェクト画面は7ページあります。

エディット手順 [MIC INPUT] ボタンを長押し(1秒以上押し続けたままにする)→[PAGE▶] ボタンを押して2ページ目を表示→ノブ1を押す→[◀ PAGE]/[PAGE ▶] ボタンを押してページを選択→ノブ1～3を操作

ページ	パラメーター名	説明
1	NoiseSw (ノイズスイッチ)	マイク入力の信号にノイズゲート効果をかけるか(on) かけないか(off)を設定します。 □設定値: off, on
	CompSw (コンプレッサースイッチ)	マイク入力の信号にコンプレッサー効果をかけるか(on) かけないか(off)を設定します。 □設定値: off, on
2	NoisAtk (ノイズゲートアタック)	ノイズゲートが効果し始めるまでの時間を設定します。 □設定値: 1 ms ~ 40 ms
	NoisRel (ノイズゲートリリース)	ノイズゲートが効果し終わる時間を設定します。 □設定値: 10 ms ~ 680 ms
	NoisTh (ノイズゲートスレッシュホールド)	ノイズゲートが効果し始めるときの入力レベルを設定します。 □設定値: -73dB ~ -30dB

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
- ▶ [LEFT]/[RIGHT] (CP50)

▶ [COMMON]

ソング設定

▶ [SONG SETTING]

▶ [RECORD]

TRACK パート

▶ [TRACK]

MIC INPUTパート

▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

▶ [MASTER COMPRESSOR]

▶ [UTILITY]

▶ [FILE]

資料

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
▶ [LEFT]/[RIGHT] (CP50)

▶ [COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]

- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]

- ▶ [UTILITY]

- ▶ [FILE]

資料

ページ	パラメーター名	説明
3	CompAtk (コンプレッサーアタック)	コンプレッサーが効果し始めるまでの時間を設定します。 □設定値: 1 ms ~ 40 ms
	CompRel (コンプレッサーリリース)	コンプレッサーが効果し終わる時間を設定します。 □設定値: 10 ms ~ 680 ms
	CompTh (コンプレッサースレッシュホールド)	コンプレッサーが効果し始めるときの入力レベルを設定します。 □設定値: -48dB ~ -6dB
4	CompRat (コンプレッサーレシオ)	コンプレッサーの圧縮比を設定します。 □設定値: 1.0 ~ 20.0
	CompOut (コンプレッサーアウトプットレベル)	コンプレッサーの出力レベルを設定します。 □設定値: 0 ~ 127
5	L.Freq (ローフリケンシー)	低域をEQで増減させる周波数を設定します。 □設定値: 32Hz ~ 2.0kHz
	L.Gain (ローゲイン)	低域をEQで増減させるゲイン量を設定します。 □設定値: -12dB ~ +12dB
6	M.Freq (ミッドフリケンシー)	中域をEQで増減させる周波数を設定します。 □設定値: 100Hz ~ 10.0kHz
	M.Gain (ミッドゲイン)	中域をEQで増減させるゲイン量を設定します。 □設定値: -12dB ~ +12dB
	M.Width (ミッドウィズ)	中域をEQで増減させる範囲の幅を設定します。 □設定値: 0.1 ~ 12.0
7	H.Freq (ハイフリケンシー)	高域をEQで増減させる周波数を設定します。 □設定値: 500Hz ~ 16.0kHz
	H.Gain (ハイゲイン)	高域をEQで増減させるゲイン量を設定します。 □設定値: -12dB ~ +12dB

マイクインサージョン画面

ここでは、MIC INPUT (マイク入力) 端子からのオーディオ信号に対してかけるインサージョンエフェクトの設定をします。マイクインサージョン画面は6ページあります。

エディット手順 [MIC INPUT] ボタンを長押し(1秒以上押し続けたままにする)→[PAGE ▶] ボタンまたはナンバー[2] ボタンを押して2ページ目を表示→ノブ2 を押す→[◀ PAGE]/[PAGE ▶] ボタンを押してページを選択→ノブ1~3 を操作

ページ	パラメーター名	説明
1	MicInsType (マイクインサージョンタイプ)	マイクインプットパートの信号にかかるインサージョンエフェクトの カテゴリとタイプを設定します。ここで選択できるエフェクトタイプ は、モジュレーションエフェクトの「Other」のエフェクトタイプ(17 ページ)と同じです。
2~6	エフェクトパラメーター	ここで設定するエフェクトパラメーターは、「MicInsType」で設定したエ フェクトタイプによって異なります。各パラメーターについては、モ ジュレーションエフェクトの「Other」のエフェクトタイプのパラメー ター(20ページ)をご参照ください。

全パートに共通の設定

リバーブ

全パートに共通となる残響の効果を加えるリバーブに関して、設定できるパラメーターを説明します。リバーブの設定画面は2ページあります。

エディット手順 [REVERB] ボタンを長押しする (1 秒以上押したままにする) → [◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押してページを選択 → ノブ 1 ~ 3 を操作

ページ	パラメーター名	説明	
1	RevType (リバーブタイプ)	リバーブのタイプを設定します。 □設定値: RichHall、RichPlt、RichRoom、WoodRoom、Room1、Room2、Stage1、Stage2	
		RichHall (Rich Hall)	豊かで深い響きを持つホールリバーブです。
		RichPlt (Rich Plate)	伸びがある響き美しいプレートリバーブです。
		RichRoom (Rich Room)	素直な響きを持つルームリバーブです。
		WoodRoom (Woody Room)	温かみのある残響音が得られるルームリバーブです。
		Room1	すっきりとした響きのルームリバーブです。
		Room2	やや深い響きのルームリバーブです。
		Stage1	奥行きがあり、伸びやかな響きを持つステージリバーブです。
Stage2	やや小さめのステージを再現したステージリバーブです。		
2	RevTime (リバーブタイム)	リバーブの長さを設定します。 □設定値: WoodRoom 0.3 ~ 10.0(sec)、 その他 0.3 ~ 30.0(sec)	
	HPF (ハイパスフィルター カットオフ)	ハイパスフィルターのカットオフ周波数を設定します。 □設定値: 20Hz ~ 8.0kHz	
	FBHiDamp (フィードバックハイダンプ)	残響音の明るさを調整します。値を大きくすると、高域の音の減衰が遅くなり、残響音が明るくなります。「RevType」が「WoodRoom」の場合はこのパラメーターは表示されません。 □設定値: 0.1 ~ 1.0	

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
[LEFT]/[RIGHT] (CP50)
- ▶ [COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]
- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]
- ▶ [UTILITY]
- ▶ [FILE]

資料

全パフォーマンスに共通の設定

マスターコンプレッサー

全パフォーマンスに共通となるコンプレッサーのパラメーターを説明します。マスターコンプレッサーの設定画面は7ページあります。

エディット手順	[MASTER COMPRESSOR] ボタンを長押し (1 秒以上押し続けたままにする) → [◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押してページを選択 → ノブ 1 ~ 3 を操作
---------	--

ページ	パラメーター名	説明
1	LowTh (ローレスショルド)	低域側においての効果が効き始める入力レベルを設定します。 □設定値: -54dB ~ -6dB
	LowAtk (ローアタック)	低域側においてのコンプレッサー効果が効き始めるまでの時間を設定します。 □設定値: 1ms ~ 200ms
2	LowRat (ローレシオ)	低域側においてのコンプレッサーの圧縮比を設定します。 □設定値: 1.0 ~ 20.0
	LowGain (ローゲイン)	低域側においての出力のレベルを設定します。 □設定値: -∞ ~ +18dB
3	MidTh (ミッドレスショルド)	中域側においての効果が効き始める入力レベルを設定します。 □設定値: -54dB ~ -6dB
	MidAtk (ミッドアタック)	中域側においてのコンプレッサー効果が効き始めるまでの時間を設定します。 □設定値: 1ms ~ 200ms
4	MidRat (ミッドレシオ)	中域側においてのコンプレッサーの圧縮比を設定します。 □設定値: 1.0 ~ 20.0
	MidGain (ミッドゲイン)	中域側においての出力のレベルを設定します。 □設定値: -∞ ~ +18dB
5	HiTh (ハイスレショルド)	高域側においての効果が効き始める入力レベルを設定します。 □設定値: -54dB ~ -6dB
	HiAtk (ハイアタック)	高域側においてのコンプレッサー効果が効き始めるまでの時間を設定します。 □設定値: 1ms ~ 200ms
6	HiRat (ハイレシオ)	高域側においてのコンプレッサーの圧縮比を設定します。 □設定値: 1.0 ~ 20.0
	HiGain (ハイゲイン)	高域側においての出力のレベルを設定します。 □設定値: -∞ ~ +18dB
7	DivFrqL (ディバイド フリケンシーロー)	3 バンドに分割するためのLow/Mid 側の周波数を設定します。 □設定値: 16Hz ~ 20kHz
	DivFrqH (ディバイド フリケンシーハイ)	3 バンドに分割するためのMid/High 側の周波数を設定します。 □設定値: 16Hz ~ 20kHz
	CmnRel (コモンリリース)	3 バンドに共通で設定するリリースタイム(コンプレッサー効果から開放されるまでの時間)を設定します。 □設定値: 10ms ~ 3000ms

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
- ▶ [LEFT]/[RIGHT] (CP50)

- ▶ [COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]
- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]
- ▶ [UTILITY]
- ▶ [FILE]

資料

ユーティリティー

システム全体に共通した設定となるユーティリティーに関して、設定できるパラメーターを説明します。ユーティリティーの設定画面は13ページあります。

エディット手順 [UTILITY] ボタン→[◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押してページを選択→ノブ 1～3 を操作

ページ	パラメーター名	説明
1	MasterTune (マスターチューン)	本体音源部で鳴るサウンド全体のチューニングを調整します。音程をセント単位で微調整します。 NOTE CP5/CP50のマスターチューニングはA3=440Hzに設定されています。1Hzは約4centです。 □設定値: -102.4 ~ +102.3 [cent]
2	VelCrv (ベロシティーカーブ)	ベロシティーカーブを設定することで、鍵盤を弾く強さに対するベロシティーの出方を決めます。 □設定値: norm(ノーマル)、soft(ソフト)、hard(ハード)、wide(ワイド)、fixed(フィックスト)
		norm(ノーマル) 鍵盤を弾く強さとベロシティーが比例しています。
		soft(ソフト) 全体に大きなベロシティーが出やすいカーブです。
		hard(ハード) 全体に大きなベロシティーが出にくいカーブです。
		wide(ワイド) キータッチの弱い部分ではベロシティーをおさえ、強い部分ではベロシティーを出やすくしたカーブです。ダイナミックレンジが広く感じられます。
	fixed(フィックスト) 鍵盤を弾く強さにかかわらず、一定のベロシティーで音源を鳴らしたい場合に使用します。この設定にした場合は、ベロシティーの値をノブ 2 (FixdLvl) で設定します。設定値は 1 ~ 127 です。	
FixdLvl (フィックスドレベル)	「VelCrv」を「fixed」に設定した場合に設定可能なパラメーターです。鍵盤を押すと、ここで設定した値のベロシティーで音源が鳴ります。 □設定値: 1 ~ 127	
3	SusPedal (サステインペダル)	音域全体の調律曲線を設定します。 □設定値: flat(フラット)、stretch(ストレッチ)
		flat(フラット) 全音域において音程がオクターブ高くなるごとに周波数が倍になる調律曲線です。
		stretch(ストレッチ) ピアノ特有の調律曲線です。「flat(フラット)」に比べ、低音側はより低く、高音側はより高く調律します。
		NOTE 「stretch」に設定した場合、効果するピアノ音色と効果しないピアノ音色があります。詳しくは、PIANO/E.PIANOカテゴリーのボイスリスト(12ページ)をご参照ください。
3	SusPedal (サステインペダル)	リアパネルのFOOT PEDAL [SUSTAIN] 端子に接続しているフットコントローラーの種類を選びます。 □設定値: FC3(HalfOn)、FC3(HalfOff)、FC4/5
		FC3(HalfOn) 付属のFC3を使用して、ハーフダンパー演奏をする場合に設定します。
		FC3(HalfOff) 付属のFC3を使用して、ハーフダンパー演奏をしない場合に設定します。
		FC4/5 別売のFC4/FC5を使用する場合に設定します。

CP5/CP50 のしくみ

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
[LEFT]/[RIGHT] (CP50)
- ▶ [COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]
- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]
- ▶ [UTILITY]
- ▶ [FILE]

資料

ページ	パラメーター名	説明	
4	CtrlAsn (コントローラーアサイン)	設定対象のコントローラーを選択します。 □設定値: CP5 の場合 FC1 (フットコントローラー1)、FC2 (フットコントローラー2)、FS (フットスイッチアサインナブル) CP50 の場合 FC (フットコントローラー)、FS (フットスイッチアサインナブル)	
		FC1/FC2 (CP5) または FC (CP50)	FOOT CONTROLLER [1]/[2] 端子または FOOT CONTROLLER 端子に接続したフットコントローラーです。
		FS	FOOT SWITCH [ASSIGNABLE] 端子に接続したフットスイッチです。
	CtrlNo (コントロールナンバー)	「CtrlAsn」で設定したコントローラーのコントロールチェンジナンバーを設定します。 □設定値: 「CtrlAsn」=「FC1」/「FC2」または「FC」の場合 00 (off)、01 ~ 95 「CtrlAsn」=「FS」の場合 00 (off)、01 ~ 95、98 (Ply/Stop)、99 (Pclnc)、100 (PcDec)	
5	RcvCh (レシーブチャンネル)	MIDI の受信チャンネルを設定します。 □設定値: 1 ~ 16、omni、off	
		omni (オムニ)	すべてのチャンネルを受信する設定です。
	TxCh (トランスミットチャンネル)	鍵盤演奏やコントローラー操作のMIDI送信チャンネルを設定します。 □設定値: 1 ~ 16、off NOTE コモンのゾーンエディットで「ZoneSw (ゾーンスイッチ)」が「on」の場合は、この設定に関係なく、ゾーンエディットの「TransCh」(32ページ)の設定が送信チャンネルになります。	
LocalSw (ローカルスイッチ)	ローカルオン/オフを設定します。ローカルオフにすると、本体の鍵盤部/コントローラー部と音源部が内部的に切り離され、鍵盤を弾いても音が出なくなります。ただし、ここでの設定には関係なく本体の演奏情報はMIDI出力され、また外部からMIDI入力されたメッセージは本体音源部で処理されます。 □設定値: off、on		
6	DevNo. (デバイスナンバー)	MIDI デバイスナンバーを設定します。外部MIDI機器との間で、バルクダンブやパラメーターチェンジなどのシステムエクスクルーシブメッセージの送受信を行なう場合、このMIDIデバイスナンバーを相手側機器のデバイスナンバーと合わせる必要があります。 □設定値: 1 ~ 16、all、off	
		all	すべてのMIDIデバイスナンバーのシステムエクスクルーシブメッセージを受信する設定です。送信時には、「1」で送信します。
		off	バルクダンブやパラメーターチェンジなどのシステムエクスクルーシブメッセージの送受信を行わない設定です。送受信しようとする、エラーメッセージがでたり、実行されなかったりします。
	In/Out (MIDI In/Out)	MIDIメッセージの入出力口として、どの端子を使用するかを設定します。 □設定値: MIDI、USB	
MIDI	MIDI端子を使用します。		
USB	USB TO HOST端子を使用します。		
NOTE	メッセージを送受信する際、MIDI、USBの2種類を同時に使うことはできません。		

CP5/CP50 のしくみ

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
[LEFT]/[RIGHT] (CP50)

[COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]

- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]

- ▶ [UTILITY]

- ▶ [FILE]

資料

ページ	パラメーター名	説明	
6	MIDISyn (MIDI シンク)	ソング(プリセットドラム、ユーザーソング)の再生を、CP5/CP50本体が持つ内部クロックで行なうか、本体と接続したMIDI機器のクロック(外部クロック)で行なうかを選択します。 □設定値: int (インターナル)、ext (エクスターナル)、auto (オート)	
		int (インターナル)	内部クロックで動作する状態です。本体を単独で使用したり、同期演奏のマスターとして使用する場合はこの状態にします。
		ext (エクスターナル)	本体に入力される外部クロックで動作する状態です。外部MIDI機器をマスターとする場合、この設定にします。この場合、外部MIDI機器側はMIDIクロックがCP5/CP50に出力される設定にする必要があります。
		auto (オート)	外部からMIDIクロックが入力されている場合、内部クロックは動作せず外部クロックに従って音が鳴ります。外部からMIDIクロックが入力されない場合、内部クロックに切り替わります。外部MIDI機器をマスターとして同期させている場合に、マスター側のMIDI送信を止めてCP5/CP50本体のソングを再生したいときなどに、便利な設定です。
7	TrnsRcvSw (トランスレシーブ スイッチ)	本体と外部MIDI機器との間で、バンクセレクトまたはプログラムチェンジを送受信するかどうかを設定します。 □設定値: off、bank (バンクセレクト)、pgm (プログラムチェンジ)、bank&pgm (バンクセレクト & プログラムチェンジ)	
		off	バンクセレクトもプログラムチェンジも送受信しません。
		bank (バンクセレクト)	バンクセレクトを送受信し、プログラムチェンジは送受信しません。
		pgm (プログラム チェンジ)	プログラムチェンジを送受信し、バンクセレクトは送受信しません。
	bank&pgm (バンクセレクト & プログラム チェンジ)	バンクセレクトとプログラムチェンジの両方を送受信します。	
Click (クリック)	メトロノームを鳴らすかどうかを切り替えます。このパラメーターの設定は、レコード画面の3ページ目の「Click」と連動しています。 □設定値: off、on		
RecCnt (レックカウント)	録音を始めるときのレックカウント音を鳴らすかどうかを切り替えます。このパラメーターは、レコード画面の4ページ目にある「RecCnt」と連動しています。 □設定値: off、on		
8	MIDIClock (MIDI クロック)	MIDI OUT端子からMIDIクロック(F8H)をMIDI出力する(on)か、MIDI出力しない(off)かを設定します。 □設定値: off、on	
	MIDI Ctrl (MIDI コントロール)	MIDIリアルタイムメッセージのスタート(FAH)、コンティニュー(FBH)、ストップ(FCH)を送受信するかどうかを設定します。 □設定値: off、in、out、in/out off.....送受信しません。 in.....受信のみします。送信はしません。 out.....送信のみします。受信はしません。 in/out.....送受信します。	
9、 0 (10)	MEQ (マスターEQバンド)	編集対象となる周波数帯域を選択します。 □設定値: CP5の場合 Low、LowMid、Mid、HighMid、High CP50の場合 Low、Mid、High	

CP5/CP50 のしくみ

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
[LEFT]/[RIGHT] (CP50)
- ▶ [COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]
- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]
- ▶ [UTILITY]
- ▶ [FILE]

資料

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
- ▶ [LEFT]/[RIGHT] (CP50)

▶ [COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]

- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

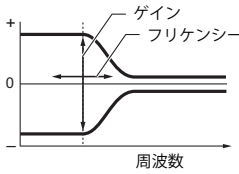
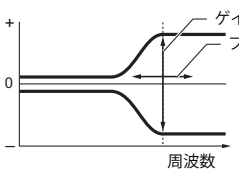
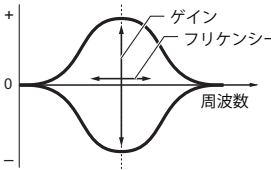
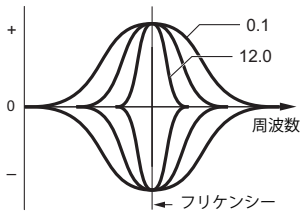
全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]

- ▶ [UTILITY]

- ▶ [FILE]

資料

ページ	パラメーター名	説明
9	Shape (シェイプ)	<p>EQの両端に当たるLow(ロー)とHigh(ハイ)の2つのバンドについて、シェルビングとピーキングのどちらのタイプとして使うかを設定します。「MEQ」が「Low」または「High」の場合のみ設定可能です。</p> <p>□設定値: shelv(シェルビングタイプ)、peak(ピーキングタイプ)</p> <p>shelv 特定の周波数以下あるいは以上の信号を盛り上げたり削ったりするタイプのイコライザーです。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>EQ Low</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>EQ High</p>  </div> </div> <p>peak 特定の周波数帯の信号を盛り上げたり削ったりするタイプのイコライザーです。</p> <div style="text-align: center;">  </div>
	Gain (ゲイン)	<p>「Freq」で設定した周波数付近の信号レベルをどの程度ブースト/カット(増減)するかを設定します。パネル上の[MASTER EQUALIZER]ノブと連動します。</p> <p>□設定値: -12 ~ +12 [dB]</p>
0 (10)	Freq (フリケンシー)	<p>ブースト/カット(増減)する中心周波数を設定します。</p> <p>□設定値: Low(ロー) 「Shape」=「shelv」の場合: 32Hz ~ 2.0kHz 「Shape」=「peak」の場合: 63Hz ~ 2.0kHz LowMid(ローミッド)、Mid(ミッド)、HighMid(ハイミッド) 100Hz ~ 10.0kHz High(ハイ) 500Hz ~ 16.0kHz</p>
	Q (キュー)	<p>「Freq」で設定した周波数付近の信号レベルを増減させて、さまざまな周波数特性カーブを作ることができます。値が大きくなると周波数の範囲が狭くなり、急な音色変化になります。値が小さくなると周波数の範囲が広くなり、なだらかな音色変化になります。</p> <p>□設定値: 0.1 ~ 12.0</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>NOTE Low(ロー)とHigh(ハイ)に関しては、「Shape」を「shelv」に設定すると、「Q」の設定は無効になります。</p>

ページ	パラメーター名	説明
A (11)	Bright (ブライツネス)	<p>本体の画面表示の輝度を設定します。</p> <p>□設定値: 1 ~ 4(最大輝度)</p> <p>NOTE 本体の蛍光表示管の輝度は、[UTILITY] ボタンを押しながら [◀ PAGE]/ [PAGE ▶] ボタンを押すことによっても設定できます。</p>
	AutoLoad (オートロード)	<p>電源起動時に、本体に接続されているUSBフラッシュメモリーにあるAllファイル(51ページ)をロードするかどうかを設定します。オートロードをする場合は、ロードするAllファイルの名前をAUTOLOAD.C5A(CP5の場合)/AUTOLOAD.C6A(CP50)とする必要があります。そのファイルをUSBフラッシュメモリーのルートディレクトリーにおき、電源起動前に本体にUSBフラッシュメモリーを接続します。</p> <p>□設定値: off, on</p>
B (12)	StartUp (スタートアップ)	<p>電源を入れたときにトップ画面に表示されるパフォーマンスを設定します。</p> <p>□設定値: PRE1: A01 ~ D10, PRE2: A01 ~ D10, PRE3: A01 ~ D10, USR1: A01 ~ D10, USR2: A01 ~ D10, USR3: A01 ~ D10, EXT1: A01 ~ D10, EXT2: A01 ~ D10, EXT3: A01 ~ D10</p>
C (13)	BulkDmp (バルクダンプ)	<p>現在選択中のパフォーマンスデータを、MIDIのシステムエクスクルーシブデータ(バルクデータ)として、コンピューターや外部MIDI機器などに送信(バルクダンプ)できます。</p> <p>ノブ1を押すと、バルクダンプの実行を確認する画面が表示されます。この画面では、ノブ1 (YES [PUSH])または[ENTER]ボタンを押すとバルクダンプが実行され、ノブ3 (NO [PUSH])または[EXIT]ボタンを押すとバルクダンプがキャンセルされます。</p> <p>NOTE バルクダンプを行なうためには、「DevNo.(デバイスナンバー)」(45ページ)が正しく設定されている必要があります。バルクダンプの操作方法については、取扱説明書をご参照ください。</p>
	FactSet (ファクトリーセット)	<p>本体内蔵のユーザーメモリーを工場出荷時の状態に戻すファクトリーセットを実行します。ノブ2を押すと、ファクトリーセットの実行を確認する画面が表示されます。この画面では、ノブ1 (YES [PUSH])または[ENTER]ボタンを押すとファクトリーセットが実行され、ノブ3 (NO [PUSH])または[EXIT]ボタンを押すとファクトリーセットがキャンセルされます。</p> <p>注記 ファクトリーセットを実行すると、現在のユーザーメモリーのパフォーマンスデータやユーザーソング、またシステム設定(ユーティリティ、マスターコンプレッサー、トランスポーズ)の内容が、すべて工場出荷時の設定に書き換えられてしまいます。大切なデータを失わないようにご注意ください。必要な設定内容は、前もってUSBフラッシュメモリーやコンピューターなどに保存されることをおすすめます。</p>

CP5/CP50 のしくみ

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
- ▶ [LEFT]/[RIGHT] (CP50)

- ▶ [COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]
- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]
- ▶ [UTILITY]
- ▶ [FILE]

資料

ファイル

本体のユーザーメモリーの全データを USB フラッシュメモリーに保存したり、USB フラッシュメモリーからデータを読み込んだりするファイル操作に関して、設定できるパラメーターを説明します。ファイルの設定画面は2ページあります。

エディット手順 [FILE] ボタン→[◀ PAGE]/[PAGE ▶] ボタンを押してページを選択→ノブ1～3を操作

ページ	パラメーター名	説明
1	Save(セーブ)	ファイルをUSBフラッシュメモリーのルートディレクトリーに保存(セーブ)します。ノブ1を押すと、セーブ画面に入ります。セーブ画面に表示されるパラメーター名について、詳しくは50ページをご参照ください。
	Load(ロード)	USBフラッシュメモリーのルートディレクトリーにあるファイルを本体に保存(ロード)します。ノブ2を押すと、ロード画面に入ります。ロード画面に表示されるパラメーター名について、詳しくは51ページをご参照ください。 注記 ロードを実行すると、指定したメモリーに保存されていたデータは消えてしまいます。大切なデータは、あらかじめUSBフラッシュメモリーなどに保存(セーブ)しておくことをおすすめします。
	Rename(リネーム)	USBフラッシュメモリー上のAllファイルの名称を変更(リネーム)します。ノブ3を押すと、リネーム画面に入ります。リネーム画面に表示されるパラメーター名について、詳しくは53ページをご参照ください。
2	Delete(デリート)	USBフラッシュメモリー上のAllファイルを削除(デリート)します。ノブ1を押すと、デリート画面に入ります。デリート画面に表示されるパラメーター名について、詳しくは53ページをご参照ください。
	Format(フォーマット)	USBフラッシュメモリーをフォーマットします。フォーマットすると、本体に接続中のUSBフラッシュメモリーが初期化されます。この画面でノブ2を押すと、フォーマットの実行を確認する画面が表示されます。[EXIT]ボタンを押すと、ファイルの2ページ目の画面に戻ります。 注記 フォーマットを実行すると、そのメディアの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。
	MemInfo(メモリーインフォメーション)	USBフラッシュメモリーの容量を表示します。ノブ3を押すと、インフォメーション画面に入ります。インフォメーション画面で表示されるパラメーターは以下のとおりです。 Free(フリー) 本体に接続しているUSBフラッシュメモリーの空き容量を表示します。全容量に対する割合も、パーセントで表示します。 Total(トータル) 本体に接続しているUSBフラッシュメモリーの全容量を表示します。

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
- ▶ [LEFT]/[RIGHT] (CP50)

- ▶ [COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]

- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]

- ▶ [UTILITY]

- ▶ [FILE]

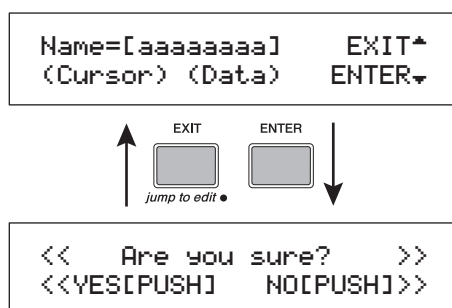
資料

Save (セーブ)

セーブ画面で表示されるパラメーターは以下のとおりです。

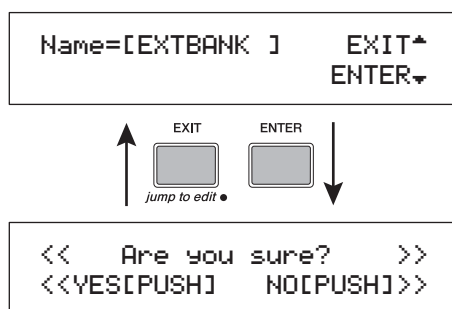
パラメーター名	説明
Type (タイプ)	USBフラッシュメモリーにセーブするファイルタイプを選択します。タイプを選択したら、[ENTER]ボタンを押して、次の画面に進みます。[EXIT]ボタンを押すと、ファイルの1ページ目の画面に戻ります。 □設定値: All (オール)、Ext (エクスターナル)、SMF (スタンダード MIDI ファイル)
All	ユーザーパフォーマンスメモリーやユーザーソング、またシステム設定(マスターEQ、ユーティリティ、トランスポーズの設定)のデータを、まとめて1つのファイル(拡張子:CP5の場合はC5A、CP50の場合はC6A)としてセーブします。エクスターナルパフォーマンスメモリーのデータは含まれません。
Ext	エクスターナルパフォーマンスメモリーの全データを、まとめて1つのファイル(CP5の場合はEXTBANK.C5E、CP50の場合はEXTBANK.C6E)としてセーブします。
SMF	選択した1つのユーザーソングデータを、MIDIファイル(拡張子:MID)としてセーブします。

Type=All の場合



パラメーター名	説明
Name (ネーム)	セーブするAllデータのファイル名を設定します。ノブ1 (Cursor)を回して、表示中の名前カーソルを1文字ずつ移動します。また、ノブ2 (Data)を回してカーソルがある位置の文字を変更します。変更できる文字は、アルファベットの大文字と、数字、記号になります。[ENTER]ボタンを押すと、設定した名前が確定され、セーブの実行を確認する画面が表示されます。[EXIT]ボタンを押すと、タイプを選択する画面に戻ります。

Type=Ext の場合



パラメーター名	説明
Name (ネーム)	エクスターナルファイルの名称が表示されます。名称は常に「EXTBANK」となります。[ENTER]ボタンを押すと、セーブの実行を確認する画面が表示されます。[EXIT]ボタンを押すと、タイプを選択する画面に戻ります。 NOTE エクスターナルバンクのファイル(CP5:EXTBANK.C5E/ CP50:EXTBANK.C6E)は、1つのUSBフラッシュメモリーに1ファイルのみセーブできます。

CP5/CP50 のしくみ

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
[LEFT]/[RIGHT] (CP50)
- ▶ [COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]
- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

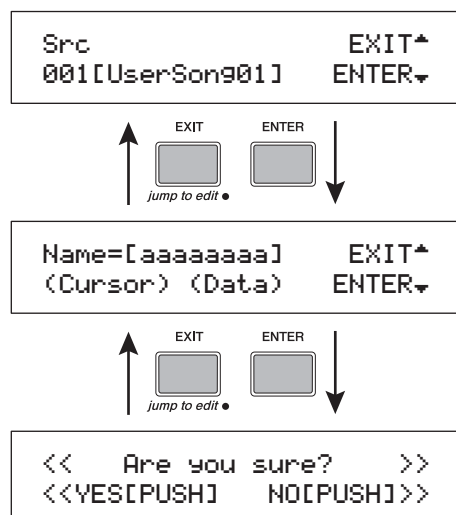
- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]
- ▶ [UTILITY]
- ▶ [FILE]

資料

Type=SMF の場合



パラメーター名	説明
Src (ソース)	ノブ1を回してセーブするユーザーソングを選択します。ソングデータがすべて空の場合は、この画面は表示されません。 [ENTER]ボタンを押すと、セーブするユーザーソングのファイル名を設定する画面が表示されます。[EXIT]ボタンを押すとタイプを選択する画面に戻ります。
Name (ネーム)	セーブするユーザーソングのファイル名を設定します。ノブ1 (Cursor)を回して、表示中の名前カーソルを1文字ずつ移動します。また、ノブ2 (Data)を回してカーソルがある位置の文字を変更します。変更できる文字は、アルファベットの大文字と、数字、記号になります。[ENTER]ボタンを押すと、設定した名前が確定され、セーブの実行を確認する画面が表示されます。[EXIT]ボタンを押すと、ユーザーソングを選択する画面に戻ります。

Load (ロード)

ロード画面で表示されるパラメーターは以下のとおりです。

パラメーター名	説明
Type (タイプ)	本体にロードするファイルのタイプを選択します。[ENTER]ボタンを押して、次の画面に進みます。[EXIT]ボタンを押すと、ファイルの1ページ目の画面に戻ります。USBフラッシュメモリーのルートディレクトリーに選択したファイルタイプが存在しない場合は、[ENTER]ボタンを押しても次の画面に進めません。 □設定値: All (オール)、Perf (パフォーマンス)、Ext (エクスターナル)、SMF (スタンダードMIDIファイル)
All	選択したファイル(拡張子: CP5の場合はC5A、CP50の場合はC6A)の全データを本体のユーザーメモリーにロードします。ユーザーメモリー上にあるエクスターナルパフォーマンス以外の全データは上書きされます。
Perf	選択したファイル(拡張子: CP5の場合はC5A、CP50の場合はC6A)の一部のパフォーマンスデータを、ロード先として指定したメモリーにロードします。
Ext	エクスターナルパフォーマンスメモリーのファイル(CP5の場合はEXTBANK.C5E、CP50の場合はEXTBANK.C6E)をロードします。
SMF	MIDIファイル(拡張子:MID)をロードします。

CP5/CP50 のしくみ

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
[LEFT]/[RIGHT] (CP50)
- ▶ [COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]
- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]
- ▶ [UTILITY]
- ▶ [FILE]

資料

リファレンス

LEFT/RIGHT パート

- ▶ [VOICE]
- ▶ [PRE-AMP]
- ▶ [MOD-FX]
- ▶ [PWR-AMP] (CP5のみ)
- ▶ [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2] (CP5)
[LEFT]/[RIGHT] (CP50)
- ▶ [COMMON]

ソング設定

- ▶ [SONG SETTING]
- ▶ [RECORD]

TRACK パート

- ▶ [TRACK]

MIC INPUT パート

- ▶ [MIC INPUT] (CP5のみ)

全パートに共通の設定

- ▶ [REVERB]

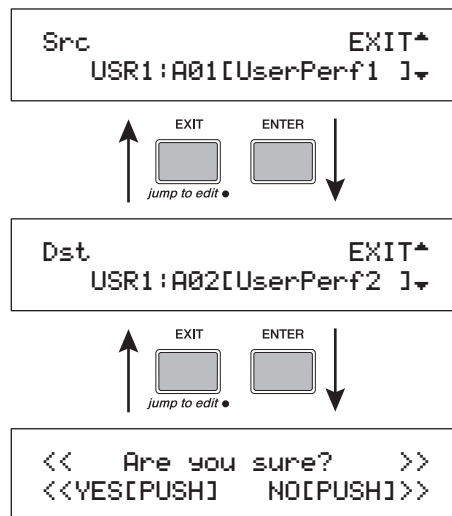
全パフォーマンスに共通の設定

- ▶ [MASTER COMPRESSOR]
- ▶ [UTILITY]
- ▶ [FILE]

資料

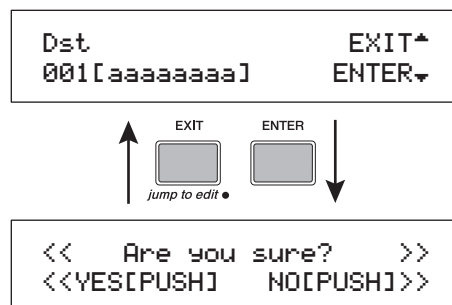
パラメーター名	説明
File (ファイル)	<p>ロードするファイルを選択します。「Type」を「Ext」に設定している場合は、ここでは常に「001[EXTBANK]」と表示されます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <pre>File EXIT^ 001[aaaaaaaa] ENTERv</pre> </div> <p>[ENTER] ボタンを押すと、次の画面に進みます。「Type」を「All」または「Ext」に設定した場合は、ロードの実行を確認する画面が表示されます。「Type」を「Perf」または「SMF」に設定した場合は、それぞれ以下のおり異なる画面が表示されます。[EXIT] ボタンを押すと、ファイルタイプを選択する画面に戻ります。</p>

Type=Perf の場合



パラメーター名	説明
Src (ソース)	<p>選択したファイルの中からロードするパフォーマンスを選択します。ノブ1でユーザーバンク (USR1~USR3) を選択し、ノブ2でグループ (A~D) とナンバー (01~10) を選択します。ノブ2でグループとナンバーを「all」に設定した場合は、ノブ1で設定しユーザーバンクの全データがロード対象になります。[ENTER] ボタンを押すと、ロード先を設定する画面が表示されます。[EXIT] ボタンを押すと、ファイルを選択する画面に戻ります。</p>
Dst (デスティネーション)	<p>ロード先となる本体のパフォーマンスメモリーを選択します。ノブ1でユーザーバンク (USR1~USR3) を選択し、ノブ2でグループ (A~D) とナンバー (01~10) を選択します。「Src」でパフォーマンスのグループとナンバーを「all」に設定した場合は、ここでのグループとナンバーも「all」に設定され、ノブ1で設定しユーザーバンクの全データがロード先になります。[ENTER] ボタンを押すと、ロードの実行を確認する画面が表示されます。[EXIT] ボタンを押すと、ロードするパフォーマンスを選択する画面に戻ります。</p>

Type=SMF の場合



資料

MIDIについて

MIDI(ミディ)は、Musical Instrument Digital Interface の頭文字をとったもので、楽器同士を接続して演奏情報や音色情報などをやりとりするために作られた世界統一の規格です。世界統一規格ですから、メーカーや楽器の種類が違っててもデータをやりとりできます。

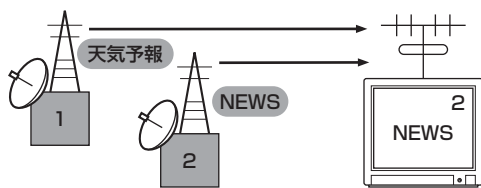
MIDI では、「鍵盤を弾く」、「パフォーマンスを選ぶ」といった演奏に関する情報以外に、テンポをコントロールするための情報など、さまざまな情報をやりとりできます。これらの情報をフルに活用すると、鍵盤やコントローラーを使って演奏するだけでなく、パートごとのパンやリバーブの深さを変えたり、エフェクトの設定を変更するなど、本体パネルで設定するパラメーターのほとんどを、外部MIDI機器からMIDIを通してコントロールできます。

「MIDIについて」では、データ/値を10進数や2進数、16進数で表現しています。16進数の場合は数値の後(または列の頭)にH(Hexadecimal)が付いています。また、"n"は任意の整数を表します。

MIDI チャンネル

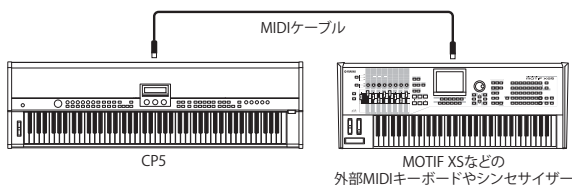
MIDI の情報には、MIDI チャンネルという1～16の番号が割り当てられています。このMIDI チャンネルを使って、1本のMIDIケーブルで同時に16パート分の情報を送る仕組みになっています。

MIDI チャンネルは、テレビのチャンネルと同じようなものだと考えることができます。テレビの放送局は、あらかじめ割り当てられたチャンネルで情報を送信します。各家庭では複数の放送局から送られてきた情報を同時に受信した上で、特定のチャンネルを選択することで目的の放送局の情報(番組)をみることができるようです。



MIDI チャンネルもこれと同じ仕組みです。MIDI データは、送信側の楽器で設定されたMIDI送信チャンネル(MIDIトランスミットチャンネル)によってMIDIケーブルを通り受信側の楽器に送られます。このとき、受信側の楽器で設定されるMIDI受信チャンネル(MIDIレシーブチャンネル)が、送信側のチャンネルと一致してはじめて音が鳴ります。

MIDI送信チャンネルと受信チャンネルの設定については、リファレンスの45ページをご参照ください。



本体で送受信できる MIDI メッセージ

MIDIメッセージは、大きく分けてチャンネルメッセージとシステムメッセージの2つのタイプがあります。それぞれのタイプには以下のようなメッセージがあります。データリスト(別PDFファイル)のMIDIデータフォーマット、MIDIインプリメンテーションチャートとあわせてお読みください。

チャンネルメッセージ

チャンネルメッセージは、チャンネルごとに個別に送られる、演奏についての情報のことです。

■ノートオン/オフ

鍵盤の演奏情報を伝えるメッセージです。

ノートオンは鍵盤を押さえたときに送信されるメッセージで、ノートオフは鍵盤を離れたときに送信されるメッセージです。各メッセージには、どの鍵盤を演奏したかを示す「ノートナンバー」と、どれくらいの強さで演奏したかを示す「ベロシティー」という2種類のデータが含まれます。

ノートナンバーの受信範囲は、中央のド(C3)を60として、0(C-2)～127(G8)です。ベロシティーの情報はノートオンにのみ含まれ、受信範囲は1～127です。

■コントロールチェンジ

ボリュームやパンなどをコントロールするメッセージです。いろいろな種類のコントロールチェンジには、それぞれコントロールナンバーが付いています。

バンクセレクト MSB(コントロールナンバー0)**バンクセレクト LSB(コントロールナンバー32)**

外部機器からパフォーマンスのバンクを選択する MIDI メッセージです。MSB と LSB の 2 つのコントロールチェンジの組み合わせでパフォーマンスバンクが選択されます。CP5/CP50 では、LSB の値でパフォーマンスのバンクを設定します。

実際には、バンクセレクト MSB、LSB を受信したあと、プログラムチェンジを受信してはじめてパフォーマンスバンクが切り替わります。

パフォーマンスバンクを含めてパフォーマンスを切り替える場合は、バンクセレクトとプログラムチェンジをセットにして、MSB、LSB、プログラムチェンジの順に送信します。各パフォーマンスバンクとパフォーマンスについては、データリスト(別 PDF ファイル)をご参照ください。

データエントリー-MSB(コントロールナンバー6)**データエントリー-LSB(コントロールナンバー38)**

RPN MSB、RPN LSB で指定したパラメーターの値を設定する MIDI メッセージです。MSB と LSB の 2 つのコントロールチェンジの組み合わせでパラメーターの値が設定されます。

メインボリューム(コントロールナンバー7)

パートごとのボリューム(音量バランス)を調節する MIDI メッセージです。値が 0 のとき音が出ず、127 のとき音量が最大になります。パートごとの音量のバランスを調節するときに使います。

パン(コントロールナンバー10)

パートごとのパン(ステレオ再生したときの音の定位)を調節する MIDI メッセージです。値が 0 のときいちばん左に、64 のときに中央に、127 のときいちばん右に移動します。

エクスプレッション(コントロールナンバー11)

パートごとのエクスプレッションを設定する MIDI メッセージです。値が 0 のとき音が出ず、127 のとき音量が最大になります。曲中での音量変化(抑揚)をつけるときに使用します。

ホールド 1(コントロールナンバー64)

サステインペダルのオン/オフを設定する MIDI メッセージです。ペダルを踏んだときに発音していた音を持続します。値が 0 ~ 63 のときサステインペダルがオフ(離れた状態)、64 ~ 127 のときオン(踏んだ状態)になります。オンのときはノートオフを受信しても発音している音が持続します。

ソステヌートペダル(コントロールナンバー66)

ピアノのソステヌートペダルのオン/オフを設定する MIDI メッセージです。値が 0 ~ 63 のときソステヌートがオフ、64 ~ 127 のときオンになり、ソステヌート効果がかかります。特定の音(ノートナンバー)の発音中にオンにすると、オフするまでその音が持続します。

ソフトペダル(コントロールナンバー67)

ピアノのソフトペダルのオン/オフを設定する MIDI メッセージです。値が 0 ~ 63 のときソフトがオフ、64 ~ 127 のときオンになり、ソフト効果がかかります。

リリースタイム(コントロールナンバー72)

パートごとの AEG リリースタイムを調節する MIDI メッセージです。

0 ~ 127 の値を -64 ~ + 63 に置き換えて元のパフォーマンスデータに加減され、リリースタイムが変更されます。

ディケイタイム(コントロールナンバー75)

パートごとの AEG ディケイタイムを調節する MIDI メッセージです。

0 ~ 127 の値を -64 ~ + 63 に置き換えて元のパフォーマンスデータに加算され、ディケイタイムが変更されます。値を大きくすると立ちあがり後の余韻が長くなります。

エフェクト 1 デプス(リバーブセンドレベル)**(コントロールナンバー91)**

リバーブエフェクトに対するセンドレベルを設定する MIDI メッセージです。

データインクリメント(コントロールナンバー96)**データデクリメント(コントロールナンバー97)**

外部機器の RPN(下記参照)でピッチバンドセンシティビティーを指定した後、それぞれのパラメーターの値を 1 ずつ増減する MIDI メッセージです。

RPN LSB(レジスタードパラメーターナンバー-LSB)**(コントロールナンバー100)****RPN MSB(レジスタードパラメーターナンバー-MSB)****(コントロールナンバー101)**

外部機器から、ピッチバンドセンシティビティーやチューニングなど、パートの設定をオフセット値で変更するための MIDI メッセージです。

RPN MSB、RPN LSB で変更したいパラメーターを指定したあと、前述のデータインクリメント/デクリメントでパラメーターの値を設定します。

RPN が設定されると、その後同じチャンネルで受信するデータエントリーは、設定した RPN の値として処理されます。このメッセージを使ってコントロールした後は、一旦パラメーターナンバーを Null(7FH, 7FH)に設定し直して誤操作を防止してください。

以下のパラメーターをコントロールできます。

RPN MSB	RPN LSB	パラメーター名
00H	00H	ピッチバンドセンシティビティー
7FH	7FH	RPN ヌル

チャンネルモードメッセージ

2nd BYTE	3rd BYTE	MESSAGE
120	0	オールサウンドオフ
121	0	リセットオールコントローラー
123	0	オールノートオフ

オールサウンドオフ(コントロールナンバー120)

各パートの発音中の音をすべて消去する MIDI メッセージです。ホールド 1 やソステヌートなどのチャンネルメッセージは保持します。

リセットオールコントローラー(コントロールナンバー121)

コントローラーの値を初期設定値に戻す MIDI メッセージです。次の各値を初期値に戻します。

コントローラー	初期値
ピッチベンド	0(中央)
エクスプレッション	127(最大値)
ホールド 1	0(off)
ソステヌート	0(off)
ソフトペダル	0(off)
RPN	番号未設定状態となり、内部データは変更されない

オールノートオフ(コントロールナンバー123)

各パートのオンになっているノートをすべてオフにする MIDI メッセージです。ただし、ホールド 1 またはソステヌートがオンになっている場合は、それがオフになるまでは音は消えません。

オムニモードオフ(コントロールナンバー124)

オールノートオフを受信したときと同じ処理を行いません。CP5/CP50 のレシーブチャンネルを 1 に設定します。

オムニモードオン(コントロールナンバー125)

オールノートオフを受信したときと同じ処理を行いません。CP5/CP50 のレシーブチャンネルのみをオムニオンに設定します。

■プログラムチェンジ

パフォーマンスを選択するための MIDI メッセージです。バンクセレクトと組み合わせて使用すると、すべてのバンクのパフォーマンスを MIDI で選択できるようになります。パフォーマンスリストについては、データリスト(別 PDF ファイル)をご参照ください。

NOTE プログラムチェンジを 0～127 で設定する場合は、データリストの No. から 1 を引いた数で指定します。たとえば、No.16 のプログラムを指定する場合は、プログラムチェンジ=15 になります。

■ピッチベンド

ピッチベンドホイールの演奏を伝えて、ピッチを変化させる MIDI メッセージです。

システムメッセージ

システムメッセージは、機器間の同期などシステム全体に関連した設定を行なう情報です。

■システムエクスクルーシブメッセージ

システムエクスクルーシブメッセージのバルクダンプやパラメーターチェンジでは、デバイスナンバーと呼ばれる専用の MIDI チャンネルのようなものがあり、送信側の機器と受信側の機器で一致していなければなりません。この MIDI メッセージを使うと、外部 MIDI 機器から本体のほとんどすべての設定をエディットすることも可能になります。

■システムリアルタイムメッセージ

アクティブセンシング(FEH)

演奏中に MIDI ケーブルが抜けたり、断線したりしてトラブルが起こるのを防ぐための MIDI メッセージです。アクティブセンシングを受信すると、本体は MIDI ケーブルの状態を監視する状態に入ります。アクティブセンシングを受信してから約 300msec 以上経っても次の信号がこない場合は、MIDI ケーブルにトラブルが起きたと判断して、オールノートオフとリセットオールコントローラーを受信したときと同じ処理をします。

タイミングクロック(F8H)

他の MIDI 機器と同期するために送受信されるメッセージです。内部クロックを使用するか MIDI IN からのクロックを使用するかを、[UTILITY] ボタン→ナンバー[6] ボタン→「MIDI Syn」で設定できます。



ヤマハデジタル楽器・DTM製品ホームページ
<http://www.yamahasynt.com/jp/>

ヤマハマニュアルライブラリー
<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>

あなたの音楽生活をフルサポート ミュージックイー klub
<http://www.music-eclub.com/>



このマニュアルは、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構により色覚の個人差を問わず、多くの方に見やすく配慮されたデザイン（カラーユニバーサルデザイン）として認定されました。

U.R.G., Pro Audio & Digital Instrument Division, Yamaha Corporation
© 2010 Yamaha Corporation

MW-B0